平成２５年度　家庭教育に関する調査研究

テーマ

「子どもの成長に伴う、家庭生活の状況と、家庭教育に対する保護者の意識の変化に関する調査研究」

― 平成21年度と平成25年度の調査結果の比較から ―

平成２５年度　家庭教育に関する調査研究　実施計画

１　テーマ

「子どもの成長に伴う、家庭生活の状況と、家庭教育に対する保護者の意識の変化に関する調査研究」

―　平成 21 年度と平成 25 年度の調査結果の比較から　―

２　調査目的

子どもの成長に伴って、家庭生活の状況や、保護者の家庭教育に対する意識がどのように変化しているのかを、平成 21 年度の調査結果との比較から明らかにし、保育所・幼稚園・小学校に通う子を持つ保護者への、より適切な家庭教育支援・子育て支援の在り方を考え、提案するための資料とする。

３　テーマ設定の理由

幼稚園・保育所を卒園し、小学校に入学して年を経ていくとともに、子どもは心も体も成長していく。その中で、交友関係が広がり、保護者の目の届かないことが増えてくる。また、高学年になるにしたがって授業時間数が増え、委員会活動や部活動が始まり、学校での活動は多様なものになっていく。このような子ども自身の変化や子どもを取り巻く環境の変化に伴い、家庭生活の状況や保護者の家庭教育に対する意識は、様々に変化していくものと思われる。

平成 21 年度に行われた年少組・年長組・小学校２年生の保護者を対象にした家庭教育に関する調査研究では、子育てのことで「あまり悩んでいない」「まったく悩んでいない」と答えた保護者が 50％弱であった。また、同調査で、「家庭での子育てとして何が大切か」との問いに対して、最も多かった答えは「基本的生活習慣」で 25％を超えていた。子どもが成長し、子どもを取り巻く環境が変化する中で、子育てに悩む保護者の割合や子育てに対する保護者の思いは変化していくのだろうか。

そこで、本調査研究では、平成 21 年度に行ったアンケートとほぼ同じものを同地区の小学２年生・４年生・６年生の保護者に実施することにした。子どもの精神的・身体的な成長や子どもを取り巻く環境の変化に伴う、家庭生活の状況と保護者の家庭教育に関する意識の変化を、年少組と小学２年生、年長組と小学４年生、小学２年生と６年生を比較することで探っていく。そして、その結果を、学年が上がり子どもが成長していく中での家庭教育支援・子育て支援の在り方を考える資料とする。

４　調査計画

- 調査項目の検討・決定　　第２回家庭教育企画委員会（９月３日）
- 調査実施　　県内小中学校（９月１７日～１０月１日）
- 統計処理　　県総合教育センター（１０月中旬～下旬）
- 調査結果第一次分析　　生涯学習課（１０月下旬～１１月中旬）
- 調査結果第二次分析　　家庭教育企画委員（１１月中旬～１２月中旬）
- 調査結果最終分析　　第３回家庭教育企画委員会（１月２０日）
- 「家庭教育資料」印刷・配布　生涯学習課（平成２５年度末）

５　調査概要

（１）調査対象

・県内の小学２年生・４年生・６年生の保護者　　１，８１７人（回収率９３．９％）

今回の調査は，平成21年度に調査した同じ学校の６年生の保護者、及び平成21年度に調査した幼稚園・保育所に在籍していた子どもたちの通う小学校２・４年生の保護者を対象に調査を行う。したがって設問は、４年前の調査とほぼ同一にするなど，比較考察しやすいように配慮する。

（２）回答者数

・県内の小学２年生・４年生・６年生の保護者　　１，７０７人

学　年	小学２年生	小学４年生	小学６年生	無　答	合　計
保護者数 （回収率）	５６０人 (92.6%)	５７６人 (96.8%)	５６３人 (91.2%)	８人	１，７０７人 (93.9%)

（参考）

子どもの性別	男子児童	女子児童	無　答	合　計
保護者数 （割合）	８５２人 (49.9%)	８５４人 (50.0%)	１人 (0.1%)	１，７０７人 (0.1%)

回答者	父　親	母　親	祖父母	その他の保護者	無　答	合　計
保護者数 （割合）	１００人 (5.9%)	１，５８９人 (93.1%)	１２人 (0.1%)	５人 (0.3%)	１人 (0.1%)	１，７０７人 (100%)

（３）調査期間

平成２５年９月１７日～１０月１日

（４）調査方法

・質問紙法　マークカードによる回答処理

（５）統計処理

愛知県総合教育センター情報教育研究室

（６）調査項目

①　プロフィール（問１～３）

子どもの性別・学年　回答者

②　家族の生活の様子（問４～１１）

朝食・夕食の回数　夕食に同席する度合い　親子のふれあい

③　教育や子育てに関する考え方（問１２～３９）

しつけ・子育て　子どもへの関わり方　教育・子育てに関する情報源

④　子育てに対する周りの協力（問４０～４８）

家庭の教育力を高める方法　学習機会・子育て支援の希望

平成２５年度 家庭教育に関する調査研究結果の概要

Ⅰ　プロフィール（問１～３）

この調査は、子どもの年齢が上がると家庭生活の状況や、家庭教育や子育てに関する保護者の意識がどのように変化するのかを探るために行ったものである。そのために、４年前に年少・年長・小学２年生の保護者対象に行った調査とほぼ同じ調査を、小学２年生、４年生、６年生の保護者対象に行った。また、アンケート実施校は「４年前と同じ学校、または４年前に調査した幼稚園・保育所の子どもたちが通う小学校の２年生・４年生・６年生」とした。アンケートを実施したところ、回答者のプロフィールは以下の通りであった。

・回答者は、男児 852 名、女児 854 名の保護者であった。
・回答者は、小学２年生 560 人、小学４年生 576 人、小学６年生 563 人の保護者で、学年間の回答者数の差は 16 名以内であった。学年の人数差の割合は、2.9%以内であり、学年間の偏りはなかった。
・回答者は、父親が 5.9%、母親が 93.1%、その他が 1.0%で、回答者のほとんどが母親であった。

Ⅱ　家族の生活の様子（問４～１１）

朝食は、４年前と変わらず 93～96%の子どもがとっていた。しかし、見方を変えると、4%～7%の子どもが朝食をとらずに１日の生活をスタートさせていることになり、問題がないとはいえない。

家族そろって朝食・夕食を食べる家庭は、４年後、３つの学年とも若干減っていた。また、朝食を一人で食べる子どもの割合、家族そろって夕食を食べることがほとんどない家庭の割合が、４年前と比べて少し増えていた。子どもの学年が上がることで、子どもの生活時間と保護者の生活時間とのずれが少しずつ生じてきているように思われる。

平日、子どもと一緒に過ごす時間は、学年が進むにつれて若干減っていた。学年が上がると子どもを取り巻く環境が変化するので仕方のないことであろう。平成 25 年度小学２年生で、子どもと一緒に過ごす時間が１時間未満の保護者が 26%であった。このアンケートの回答者の 93%が母親であることを考えると、小学校低学年の子どもと母親との関わる時間の少なさを感じる。

「親子のふれあいができているか」との問いで、「十分できている」と回答した保護者は、４年後、３つの学年とも増えていた。平日２時間以上子どもと一緒に過ごしていても、子どもとのふれあいが、「やや不足」「とても不足」と回答した保護者の割合は 10%程度であった。学年が上がるにつれて、時間の長さだけでなく子どもとふれあう質を大切にしている保護者が増えているのかもしれない。

平日、子どもと一緒に過ごす時間のない保護者の 47%が、親子のふれあいを充実させるために一緒に出かける機会を多くもつようにしていると回答した。平日、一緒にいられないけれど、時間を見つけて子どものために努力している保護者の姿がうかがえる。

Ⅲ　教育や子育てに関する考え方（問１２～３９）

「『一般的に、最近の子どもたちは家庭で十分なしつけがなされていない』という意見に対してどう思うか」との問いに対して、４年前と変わらず３つの学年とも「思う」「どちらかと言えば思う」と回答した保護者が 75%を超えた。また、「お子さんのしつけのことで悩んでいますか」との問いに、平成 25 年度３つの学年とも、65～75%の保護者が「とても悩んでいる」「ときどき悩むことがある」と回答した。

平成 25 年度の調査と４年前の調査とを比べると、家庭学習の習慣化で悩む保護者がとても増えていた。小学校低学年から家庭学習の習慣を身につけさせようとしている保護者が多いと感じる。また、兄弟関係・兄弟げんかの悩みが減り、友達関係の悩みが増えていた。子どもの生活範囲が、家庭の中から外へと広がっている様子がうかがえる。ゲーム機や携帯電話・インターネットの使い方で悩む保護者も、４年前と比べると２倍以上に増え、学年が上がるほど心配する保護者の割合は増えていた。ゲームや携帯電話によって時間の使い方が乱れたり、ネット社会の中で子どもたちの動きが見えなかったりすることを保護者は心配しているものと思われる。

子どものしつけを主に行っているのは、４年前と変わらず３つの学年とも 60%ほどの家庭が母親であった。(家族全員：30%前後、父親：5%前後)子育てで悩んでいると回答した保護者の「悩みを解決するためにどのような方法をとっているか」との問いに対する回答で一番多かったのは「夫婦で相談」、二番目が「親や兄弟など身内に相談」であった。また、子どもの教育・子育てに関しての知識は、「家族・親族」から得ている保護者が最も多く 60%を超えていた。子育てに関する母親の負担は４年前と変わっていないものの、困ったときには家族や身内の力を借りながら対応したり、家族から様々な知識を得たりしながら子育てを行っているものと思われる。

「あなたは、子育てのことで悩んでいますか」との問いで、「とても悩んでいる」「ときどき悩むことがある」と回答した保護者は 40～50%であったものの、４年前と比べると減少していた。しつけに悩む保護者の変化とは逆の傾向を示した。年齢が上がると、子どもは保護者の手から離れ、保護者も子どもの成長を感じ、子育てに悩む保護者が減っているものと思われる。

「どんなことで悩んでいるのか」との問いに対する回答は、「子育てに十分な時間がとれない」が４年前も今回の調査でも最も多かった。二番目に多かったのは、４年前と同様に「しつけの仕方がわからない」であった。小さい子どもを持つ保護者ほど、子育てに十分な時間がとれるような社会的支援が必要である。また、しつけについて何をどのようにしつければよいのか、自信がもてずに悩みながら行っている保護者が多いものと思われる。保護者がしつけについて学ぶ機会を保証することが、保護者の

ニーズに寄りそった家庭教育支援につながっていく。

「家庭の子育てとして何が大切だと思うか」との問いに対する回答は、「基本的な生活習慣」が４年前も今回の調査でも最も多かったが、３つの学年とも 20 ポイント程度数値は低くなっていた。また、「礼儀作法、マナー、言葉遣い」が２倍近く増えていた。人前での礼儀正しい立ち振る舞いを求めている保護者が子どもの成長とともに増えてきている。一方、「公共心や社会的な規範意識」は、平成 21 年度は３つの学年とも 50%程度の数値であったが、平成 25 年度は３つの学年とも 10%以下であった。子どもの年齢が上がり、公共心や規範意識よりも大切だと思うものが増えてきているようである。

「子どもと接するときに心がけていることは」の問いに対する回答は、「ルールや決まりの大切さを子どもの頃からきちんと教える」が４年前より大きく増えて最も多く、「礼儀正しさや人を思いやる気持ちが身につくように・・・」も大きく増えて二番目に多かった。目を引いたのは、「時期が来ればできるようになることが多いので、あまり焦らないようにしている」が大きく減り、「むやみに甘やかさず、人に迷惑をかけないように厳しくしつける」が増えていたことである。保護者にとって、小学校へ入学したら、もう「時期が来れば・・・」という年齢ではなく、しっかりしてほしいと願う年齢だと考えられる。

「子どもに接する時、具体的にしていることは」の問いに対する回答は、「やってはいけないことや間違ったことをしたときには叱り、良いことをしたときにはほめるようにしている」が最も多く、二番目は「決めた約束は守らせるようにし、守らないときにはきちんと叱るようにしている」であった。このような保護者の態度は、良いことといけないことを子どもにわかりやすく伝え、子どもの価値観を育てるためにとても重要なことである。「子どもとの会話や食事」「子どもの話に耳を傾け、笑顔で応じたり励ましたりする」と回答した保護者は、平成 25 年度は 40%ほどであった。これから思春期を迎える子どもたちにとって、保護者との会話や保護者の笑顔・励ましがますます大切になってくる。引き続きこれらの大切さを子育て家庭に伝えていくことが必要である。「地域活動や地域行事に参加するように促す」が平成 21 年度・25 年度ともに 10%以下であった。子どもが成長するためには、地域の中で様々な人と関わることが必要であることを、保護者に伝えていかなければならない。

Ⅳ　子育てに対する周りの協力（問４０～４８）

「家庭の教育力を高めるためにはどのようなことを行えばよいか」との問いに対する平成 25 年度保護者の回答は、「夫婦が円満でいる」がいずれの学年も 35%前後で最も多かった。子育てを行うために「夫婦で力を合わせて」と考えている家庭が多いことにとても安心感を覚える。

「家庭教育について学習する機会があったらどんな内容のものが学習したいか」との問いに対して最も多かった回答が、４年前も今回の調査でも「祖父母の役割」で、

「子どもの心理・性格形成」、「子どものしつけの仕方」、「親の子どもに対する態度、役割」と続いた。保護者が子育てについて真剣に考えている姿勢が感じられる。祖父母が子どものしつけを行っている割合が著しく低いにもかかわらず、家庭教育における祖父母の役割を学習したいと考えている保護者が多いことは、別居・同居に関係なく、祖父母の子どもへの望ましいかかわり方を模索している保護者が多いということであろう。子育てに関する祖父母への期待の大きさがうかがえる。

「子育てのために今後充実していくことが必要だと思うものは」の問いに対して、４年前も現在も、「安全な遊び場の提供」「経済的な支援」「働く父母が家族と過ごす時間を確保する社会的支援の充実」が高い割合を示していた。働く保護者の忙しさ、経済的な余裕のなさ、安全安心な町づくりの必要性など、今の社会問題を反映している結果だと感じる。子育て支援の方向性を示唆するものと考えている。

Ⅰ　回答者のプロフィール

問１　お子さんの性別

平成２５年度

	人数（人）	割合（%）
男　子	852	49.9
女　子	854	50.0
無回答	1	0.1
合　計	1707	100.0

平成２１年度

	人数（人）	割合（%）	H25-H21
男　子	747	50.7	105
女　子	725	49.3	129
無回答	0	0.0	1
合　計	1472	100.0	235

問２　お子さんの学年

平成２５年度

	人数（人）	割合（%）
小学２年生	560	32.8
小学４年生	576	33.7
小学６年生	563	33.0
無 回 答	8	0.5
合　　計	1707	100.0

平成２１年度

	人数（人）	割合（%）	H25-H21
年少児	479	32.5	81
年中児	487	33.1	89
小学２年生	506	34.4	57
無 回 答	0	0.0	8
合　　計	1472	100.0	235

問３　回答者

平成２５年度

回答者	人数（人）	割合（%）
父　親	100	5.9
母　親	1589	93.1
祖父母	12	0.7
その他	5	0.3
無回答	1	0.1
合計	1707	100.0

平成２１年度

	人数（人）	割合（%）	H25-H21
父　親	54	3.7	46
母　親	1406	95.5	183
祖父母	8	0.5	4
その他	4	0.3	1
無回答	0	0.0	1
合計	1472	100.0	235

平成25年度の調査では、母親の回答者が全体の93%をしめ、平成21年度の調査と同様に高い割合であった。

Ⅱ　家族の生活の様子

○毎日、朝食を食べている子どもは、学年が上がっても93%を上回っていた。

問4　あなたのお子さんが食べる朝食の回数は、一週間に何回ぐらいですか。

H21【年少】とH25【小2】

	毎日	4～5回	2～3回	1回	食べない	無答	合計
H21	93.5	2.7	3.1	0.4	0.0	0.2	100.0
H25	95.9	2.3	1.4	0.0	0.4	0.0	100.0

H21【年長】とH25【小4】

	毎日	4～5回	2～3回	1回	食べない	無答	合計
H21	95.9	2.5	1.4	0.0	0.2	0.0	100.0
H25	93.2	3.1	2.6	0.5	0.5	0.0	100.0

H21【小2】とH25【小6】

	毎日	4～5回	2～3回	1回	食べない	無答	合計
H21	96.2	2.4	1.0	0.0	0.4	0.0	100.0
H25	95.2	1.6	2.3	0.2	0.5	0.2	100.0

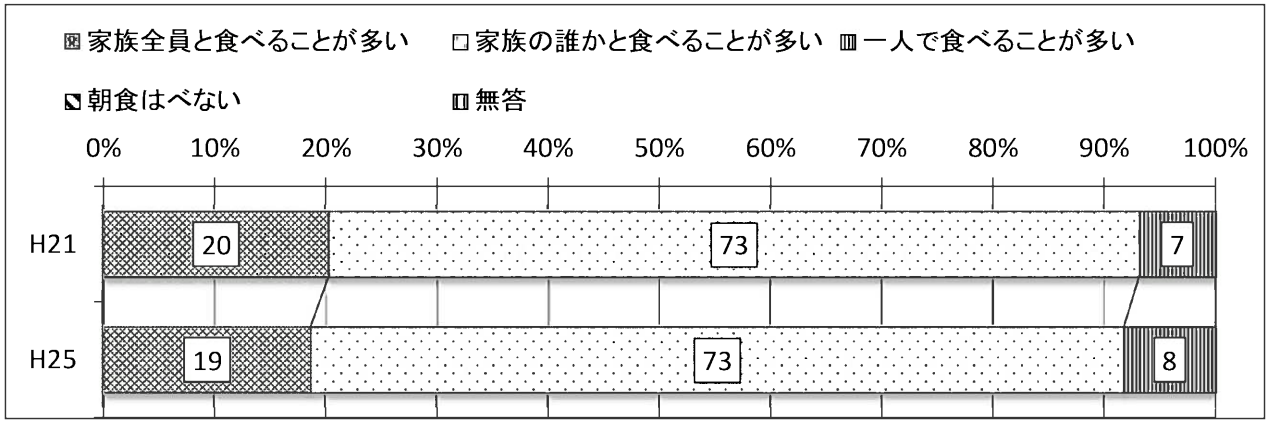
【考　察】

毎日、朝食を食べている子どもは、4年前も現在も93%を超えていた。大変望ましい結果である。しかし、7%ほどの子どもが朝食を食べずに一日をスタートさせていることにも着目しなければならない。子どもが心身ともに健康に過ごし、健やかに成長していくためには朝食がとても重要である。このことをこれからも呼びかけていくことが必要である。

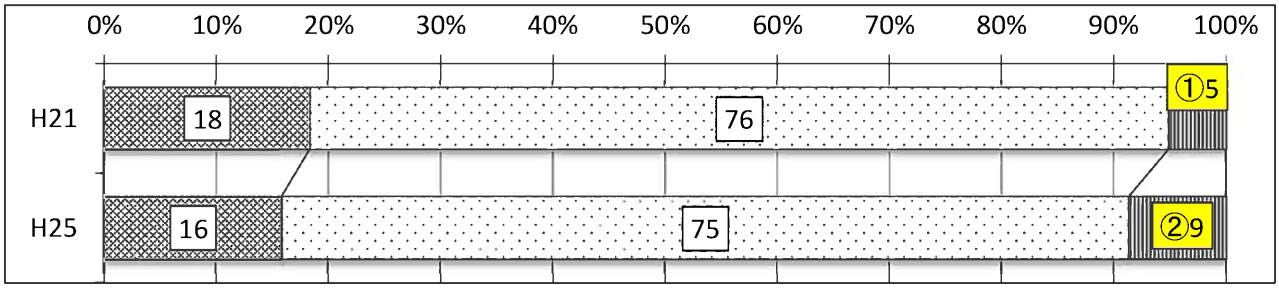
○朝食を一人で食べる子どもは、年齢が上がるにつれて増えていた。

問5　あなたのお子さんは誰と朝食を食べることが多いですか。

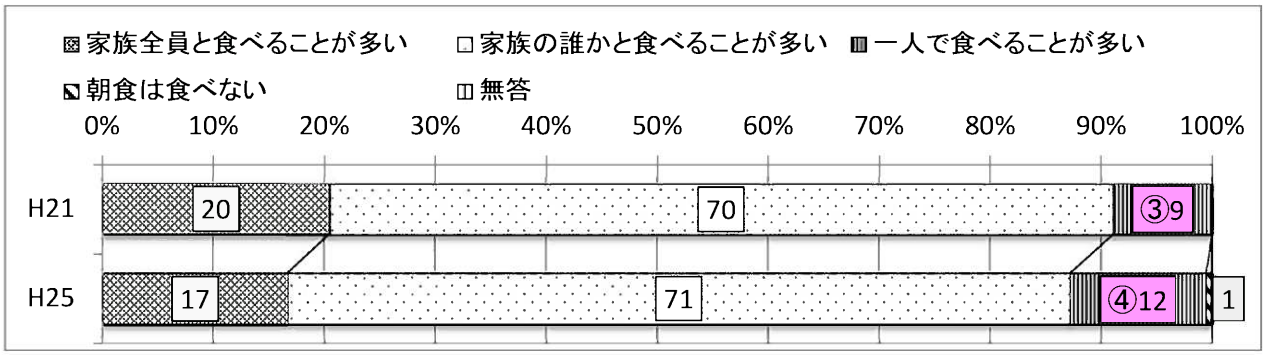
H21【年少】とH25【小2】



H21【年長】とH25【小4】



H21【小2】とH25【小6】



【考　察】

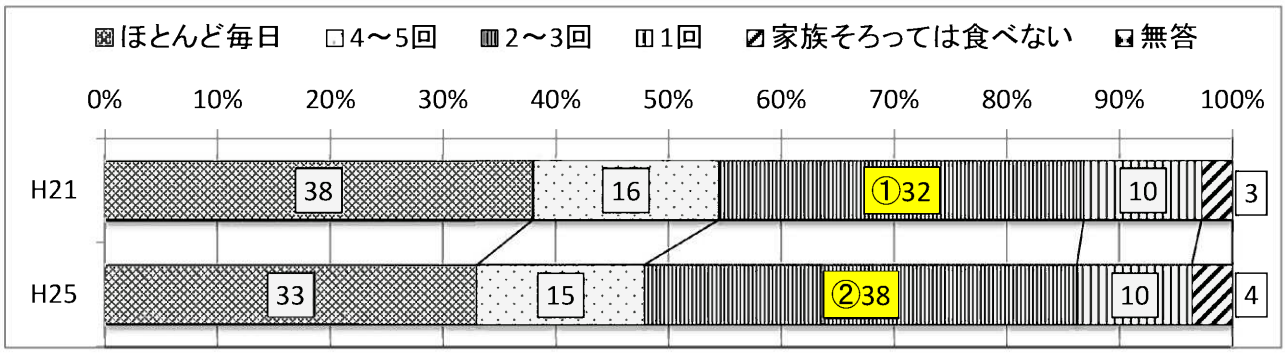
平成21年度年長の子をもつ家庭では、一人で朝食を食べる割合が4年後になると増えていた(①→②)。平成21年度小2の子をもつ家庭でも、同じ傾向であった(③→④)。

子どもが一人で朝食を食べることは、子どもに寂しさを感じさせるだけでなく、登校する前に家族が子どもの体調を確認したり、心の状態を推し量ったりする大切な機会を失うことになる。また、食事の内容や食事のマナーにも悪い影響を与えかねない。小さい子どもをもつ保護者はもちろんだが、思春期をむかえる子どもをもつ保護者にも、朝食を一緒に食べることの大切さを伝えていく必要がある。

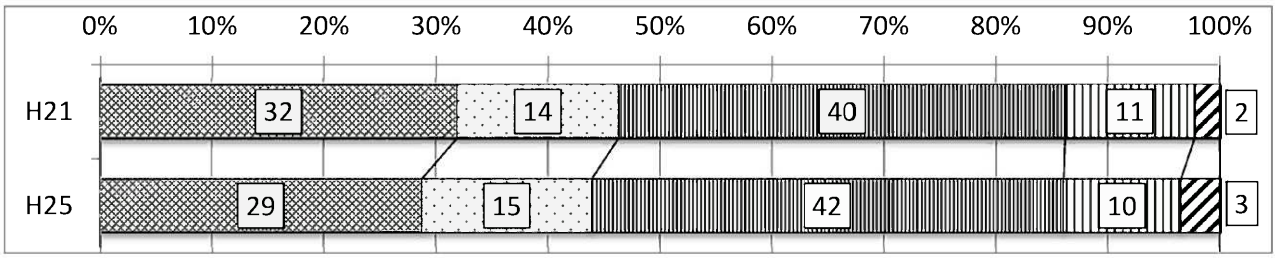
○家族そろって夕食を食べる回数は、年齢が上がるにしたがって減っていた。

問6　家族全員そろって食べる夕食の回数は、一週間に何回ぐらいありますか。

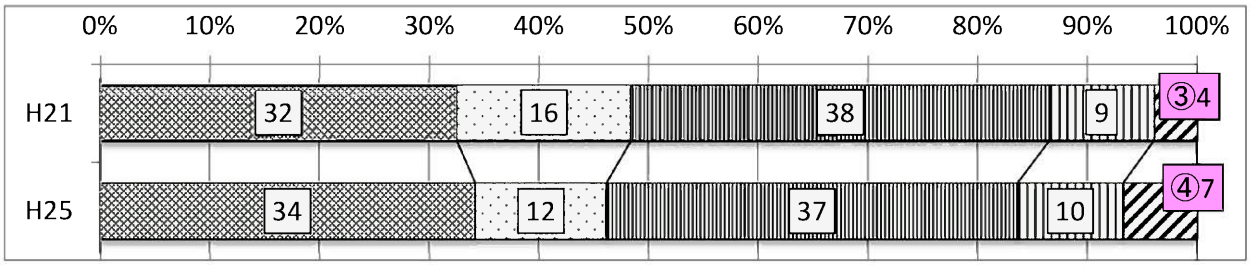
H21【年少】とH25【小2】



H21【年長】とH25【小4】



H21【小2】とH25【小6】

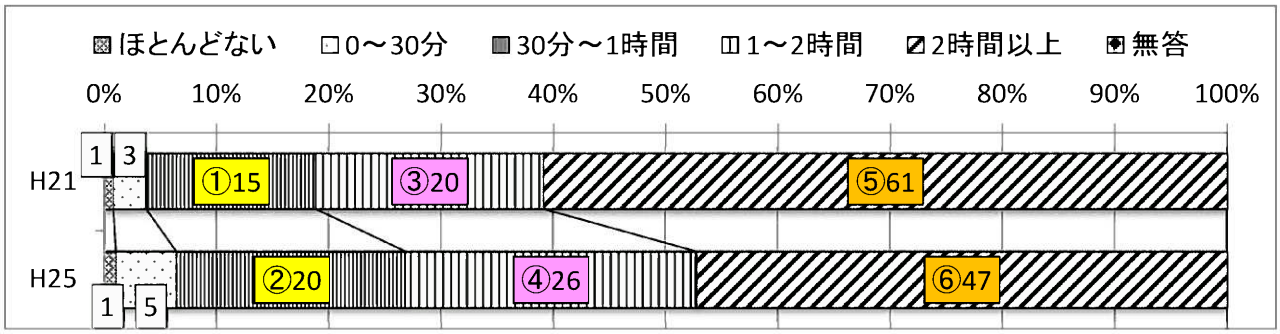


【考　察】
平成21年度年少の子をもつ家庭で、「家族そろって食べる夕食の回数は」との問いに「週に2～3回」と回答した保護者の割合が、4年後になると増えていた（①→②）。（家族そろって食べる夕食の回数が減っている。）また、平成21年度小2の子をもつ家庭は4年後、「家族そろって夕食を食べることはない」と回答した保護者の割合が増えていた（③→④）。
全体に見て、家族そろって夕食を食べる回数が、年齢とともに減っている。子どもの塾や習い事、保護者の労働時間など、子どもや家庭を取り巻く環境の変化が要因であろう。

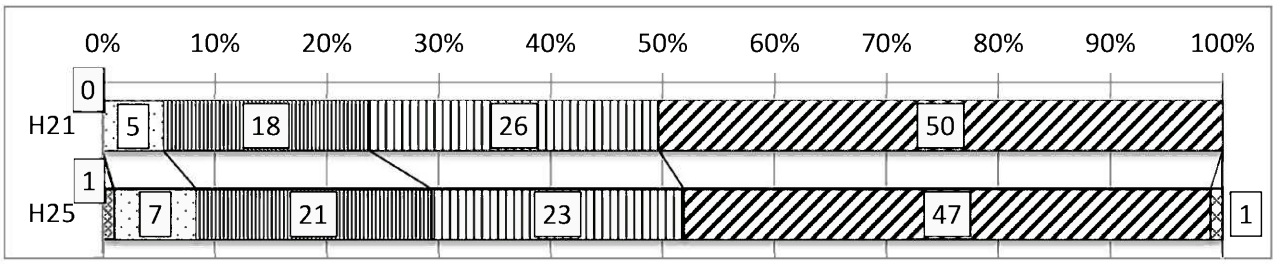
○平日、保護者の子どもと関わる時間は、学年が上がるにしたがって少しずつ短くなっていた。

問7　平日、あなたが一日にお子さんと遊んだり会話をしたりして一緒に過ごす時間は、平均どれくらいですか。

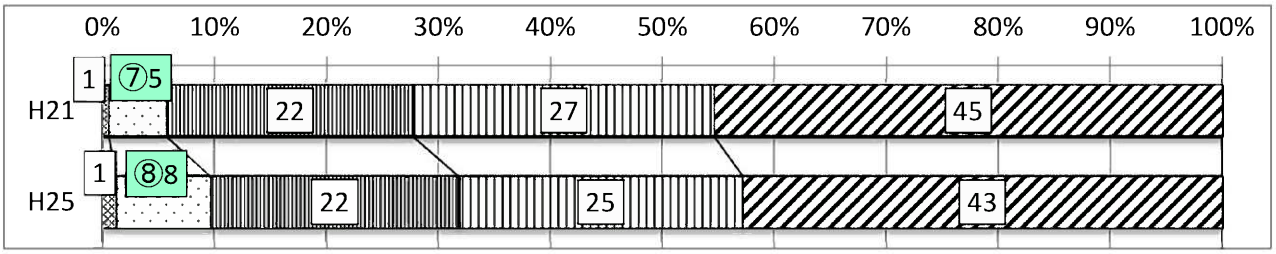
H21【年少】とH25【小2】



H21【年長】とH25【小4】



H21【小2】とH25【小6】

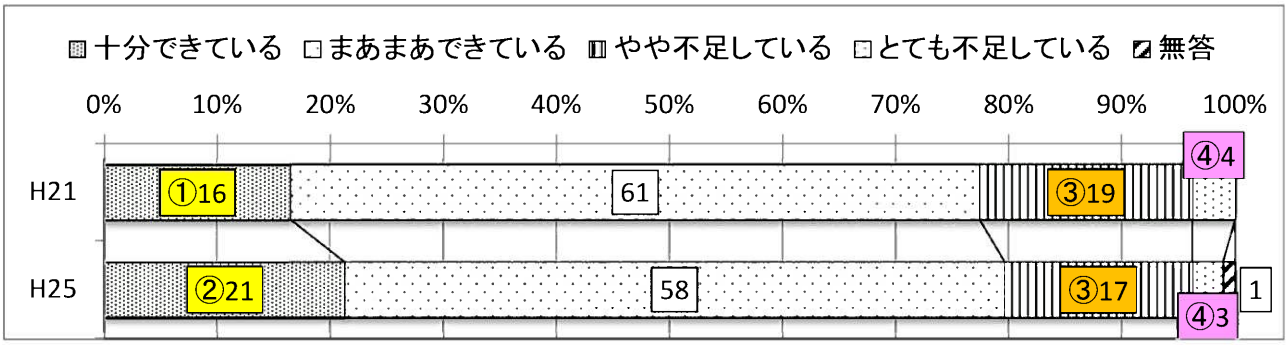


【考　察】
平成21年度年少の子をもつ家庭は、子どもと一緒に過ごす時間が「30分～1時間」「1～2時間」と回答する割合が4年後になると増え（①→②、③→④）、「2時間以上」と回答する割合が減っていた（⑤→⑥）。また、平成21年度小2の子をもつ家庭は、「0～30分」と回答する保護者の割合が4年後になると増えていた（⑦→⑧）。
学年が上がるにしたがって、平日、保護者の子どもと関わる時間が少しずつ短くなっている。特に、年少から小2の間で、減り方が顕著である。4年生からすべての曜日で6時間授業になり、中学年から委員会や部活動が始まる学校が多くなる。子どもが学校から帰ってくる時間が遅くなるため、家族と一緒に過ごす時間が短くなることは仕方のないことである。高学年になり、子どもと一緒に過ごす時間が減るかわりに、家族との会話や関わりがより良質なものになっていくことが望まれる。
子どもと一緒に過ごす時間が1時間未満という小2の保護者は、平成21年度で28％、平成25年度で26％であった。2年生は、週1回のみ6時間授業で、その他の曜日は5時間授業で3時前後に下校する（6時間授業の曜日は、4時前後下校）。このアンケートの回答者の93％が母親であることを考えると、母親と関わる時間の少なさが危惧される。

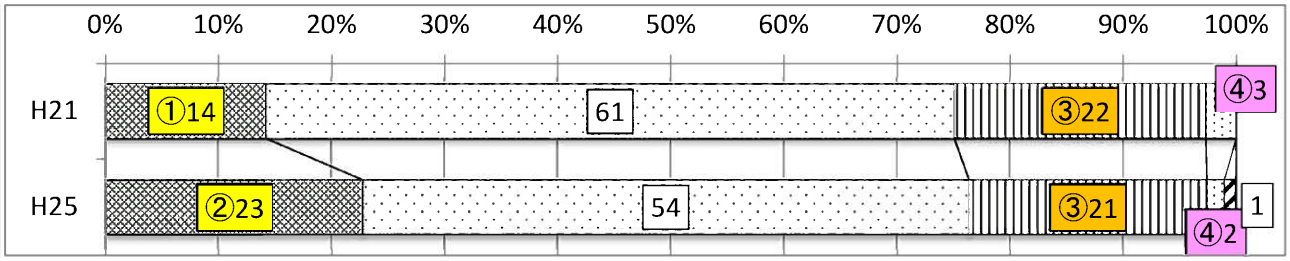
○4年前より家族と過ごす時間が減少しても、「親子のふれあいが十分できている」と回答する保護者は増加した。

問9　あなたの家族では、「親子のふれあい」ができていると思いますか。

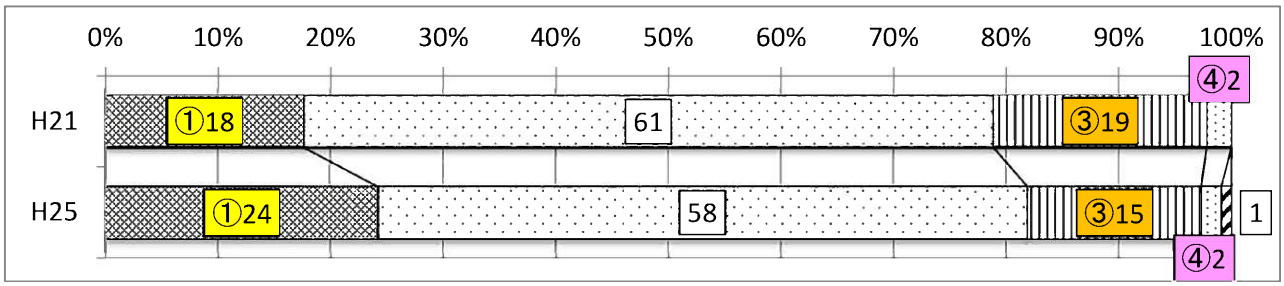
H21【年少】とH25【小2】



H21【年長】とH25【小4】



H21【小2】とH25【小6】



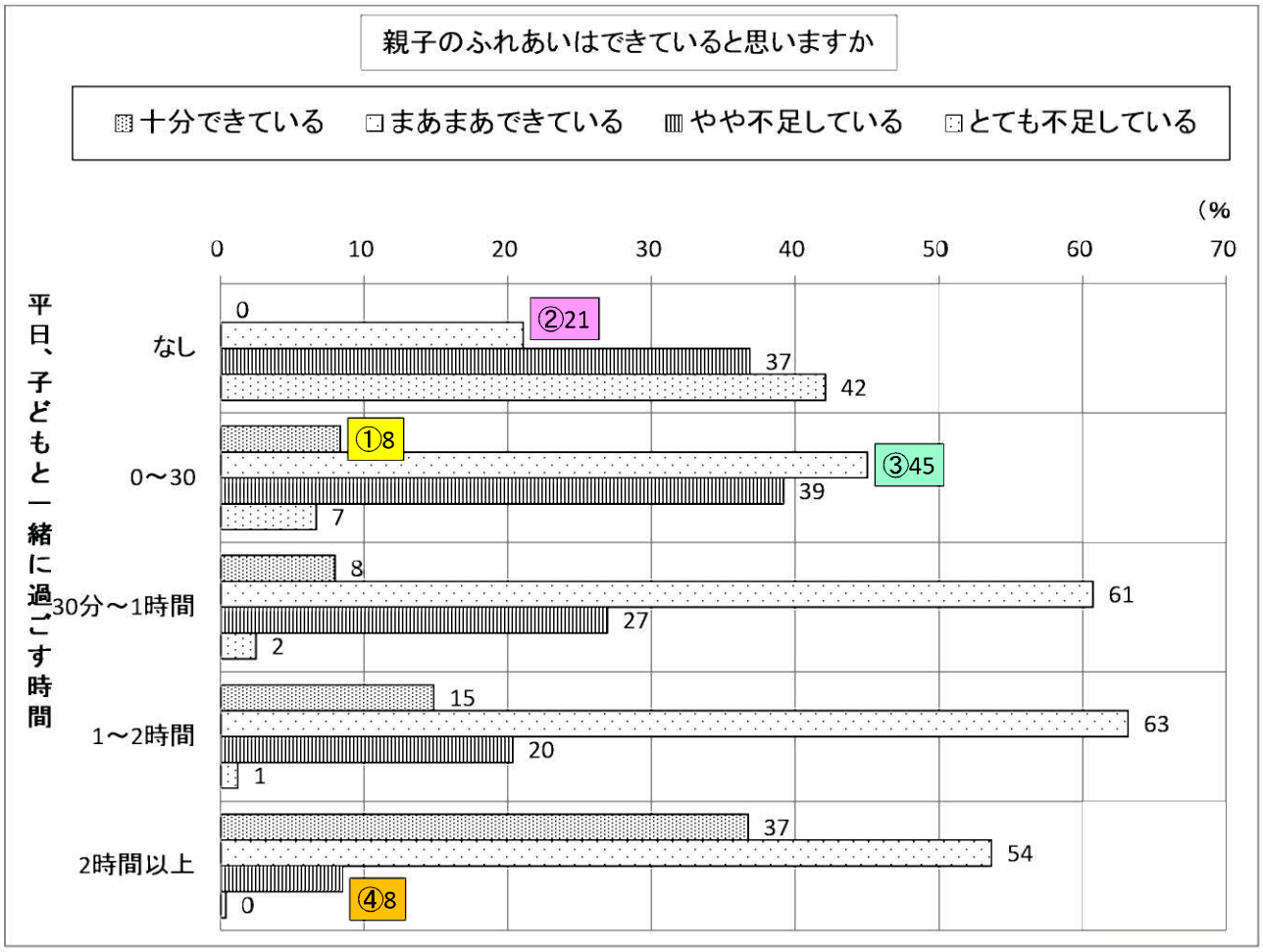
【考　察】

平日、家族と一緒に過ごす時間は減少していたものの(問7より)、3つの学年とも、平成21年度(①)より平成25年度(②)のほうが「親子のふれあいが十分できている」と回答する保護者の割合が増えていた。短い時間の中で、良質な時間を送っている家庭が多いものと思われる。

4年前も現在も、3つの学年で、20%前後の家庭が親子のふれあいが「やや不足している」(③)、「とても不足している」(④)と回答していた。ふれあいたくてもふれあえない事情を抱えた家庭だと思われる。どのような事情なのかを探り、必要に応じて支援をしていく必要がある。

○子どもとのふれ合う時間が、保護者に安心感を与えている。

問9　あなたの家族では、「親子のふれあい」ができていると思いますか。



【考　察】

平日、子どもと一緒に過ごす時間が長い保護者ほど「親子のふれあいがとても不足している」と感じる割合が少なく、「親子のふれあいが十分できている」と感じる割合が多かった。子どもとふれ合う時間が、保護者に安心感を与えているものと思われる。

平日、子どもと一緒に過ごす時間が「0～30分」でも「親子のふれあいができている」と回答した保護者が8%（①）いて、「0」「0～30分」でも「親子のふれあいがまあまあできている」と回答した保護者が21%（②）、45%（③）いた。また、2時間以上子どもと一緒に過ごしていても「親子のふれあいはやや不足」と回答した保護者は8%いた（④）。子どもと一緒にいる時間の長さだけでなく、質も重要と考えている保護者がいるものと思われる。

○平日、仕事や家事で忙しい保護者は、時間を見つけて子どもに関わろうと努力している。

問10　親子のふれあいを充実させるために、どのようなことをしてきましたか。

1. 仕事のやりくりをしたり有給休暇を取ったりして、家族サービスをしてきた
2. 子どもに話しかけたり、子どもの話を聞いたりしてきた
3. 子どもに本の読み聞かせをしたり、いっしょに本を読んだりしてきた
4. テレビの見方やゲームの仕方、スマートフォン・携帯電話の利用の仕方などのルールを決めた
5. 親子でいっしょに運動したり遊んだりする時間を大切にしてきた
6. 親子でいっしょに出かける機会を多くもつようにしてきた
7. 特にしてきたことはない

	1.家族サービス	2.話しかけたり	3.本の読聞せ	4.ルール決め	5.運動・遊び	6.お出かけ	7.特になし	8.無答
なし	5.2	21.1	0	0	5.3	①47.4	②21.0	0
0～30分	2.5	42.5	6.7	4.2	8.3	28.3	7.5	0
30分～1時間	3.0	42.6	4.7	1.6	11.6	30.5	4.9	1.1
1～2時間	3.3	48.1	2.9	2.1	12.7	26.8	4.1	0
2時間～	1.7	54.0	2.7	1.9	14.4	21.7	3.1	0.5

【考　察】

平日、子どもと一緒に過ごす時間が0～2時間以上の保護者の50％近くが、親子のふれあいを充実させるために「子どもに話しかけたり、話を聞いたりしてきた」と回答した。

子どもと一緒に過ごす時間は「なし」と回答した保護者の中で、47％の保護者が親子のふれあいを充実させるために「一緒に出かける機会を多くもつようにしてきた」と回答した（①）。平日は仕事や家事で忙しいが、時間を見つけて子どもに関わろうと努力している保護者の姿がうかがえる。

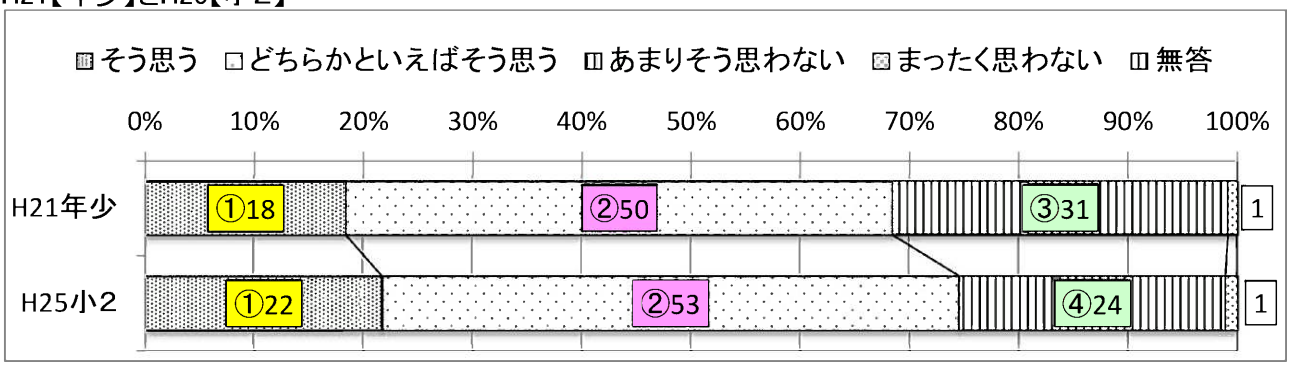
子どもと一緒に過ごす時間は「なし」と回答した保護者の中に、「特にしていることはない」と回答した保護者が21％いた（②）。このような家庭では、親子関係が希薄になりはしないか懸念される。

Ⅲ　教育や子育てに関する考え方

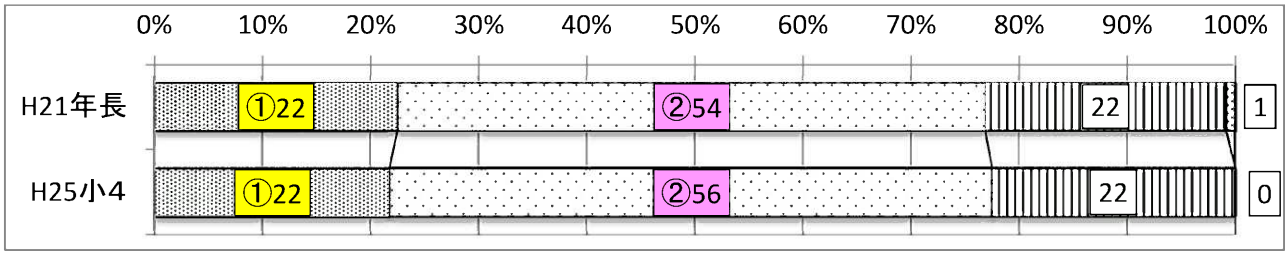
○4年前と変わらず、70～80%の保護者が「一般的に、最近の子どもたちは家庭で十分なしつけがあまりなされていない」と感じていた。

問12　「一般的に、最近の子どもたちは家庭で十分なしつけがなされていない」という意見に対して、あなたはどう思いますか。

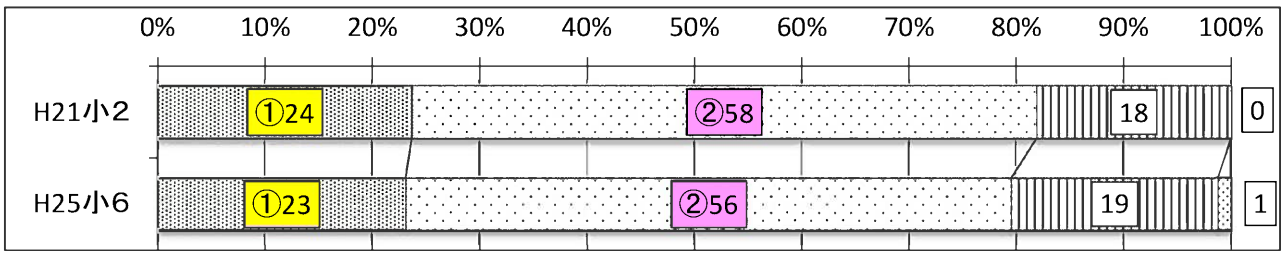
H21【年少】とH25【小2】



H21【年長】とH25【小4】



H21【小2】とH25【小6】



【考　察】

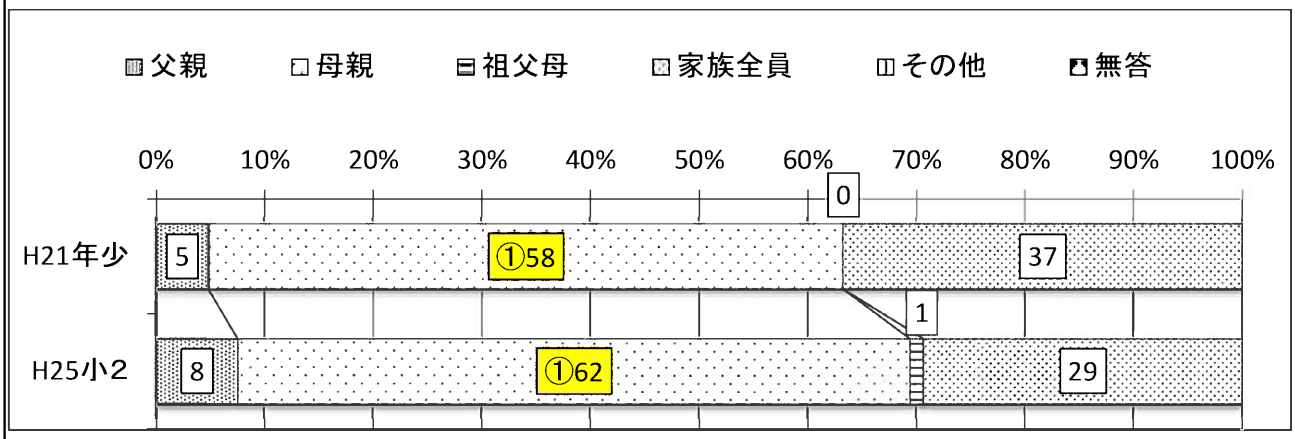
4年前も現在も、3つの学年で70～80%の保護者が「家庭で十分なしつけがなされていない」(①)、「どちらかといえばそう思う」(②)と回答した。世代間による価値観の違いから、子どもや若者の行動を気にする保護者が多いように思われる。

また、平成21年度年少の子をもつ家庭で「家庭で十分なしつけがなされていない」という意見に対して「あまり思わない」と回答する割合が、4年後になると減っていた(③→④)。

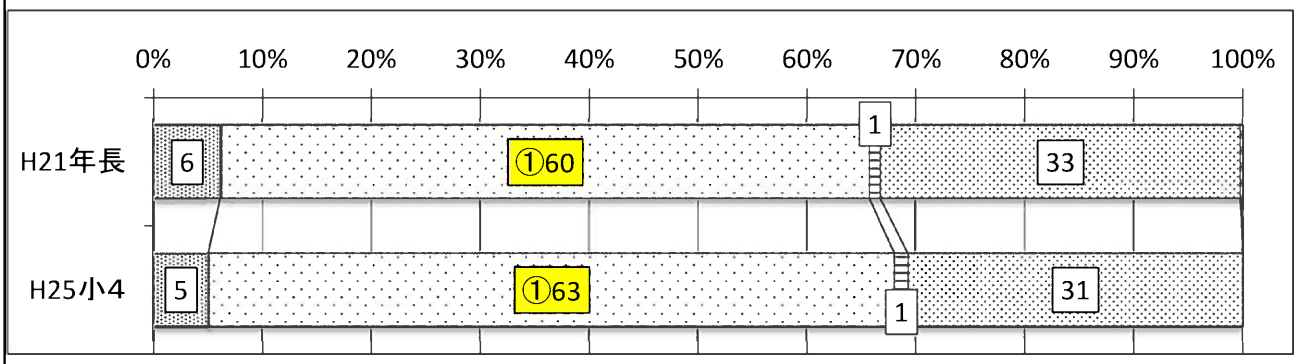
○子どものしつけに関する母親の負担は、4年前と比べて変わっていなかった。

問13　あなたの家庭で、お子さんのしつけは主に誰が行っていますか。

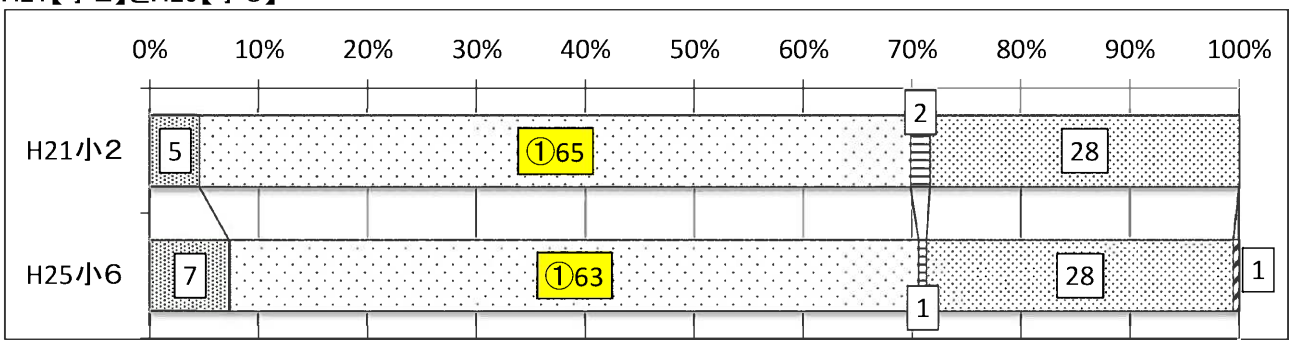
H21【年少】とH25【小2】



H21【年長】とH25【小4】



H21【小2】とH25【小6】



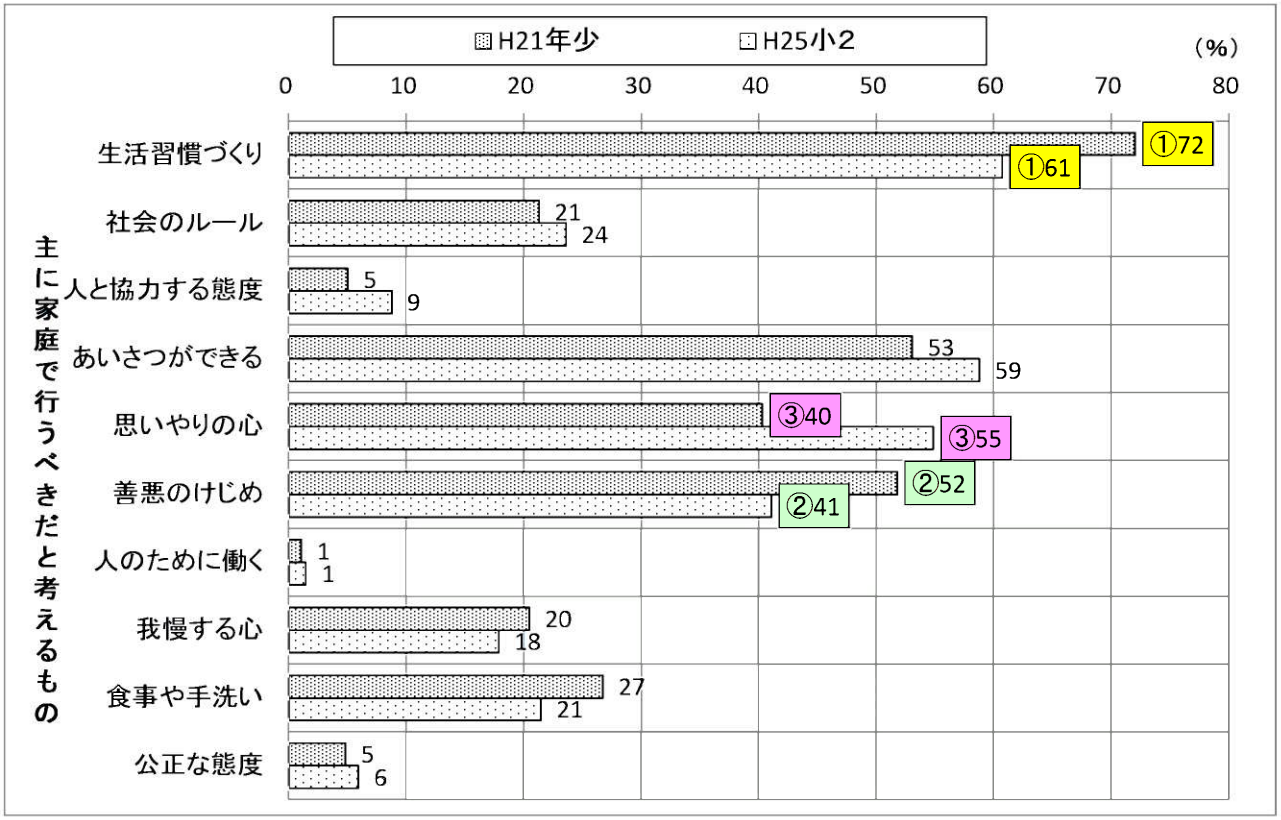
【考　察】

4年前も現在も、3つの学年で、60%ほどの家庭で主に母親が子どものしつけを行っていた(①)。子どものしつけに関する母親の負担は減っていない。大切なことは、家族全員が子どものしつけについて関心をもつことである。主に母親が子どものしつけを行っていても、父親やその他の家族が子どものしつけに関心を寄せていることが、効果的なしつけにつながり、母親のストレス解消にもなる。

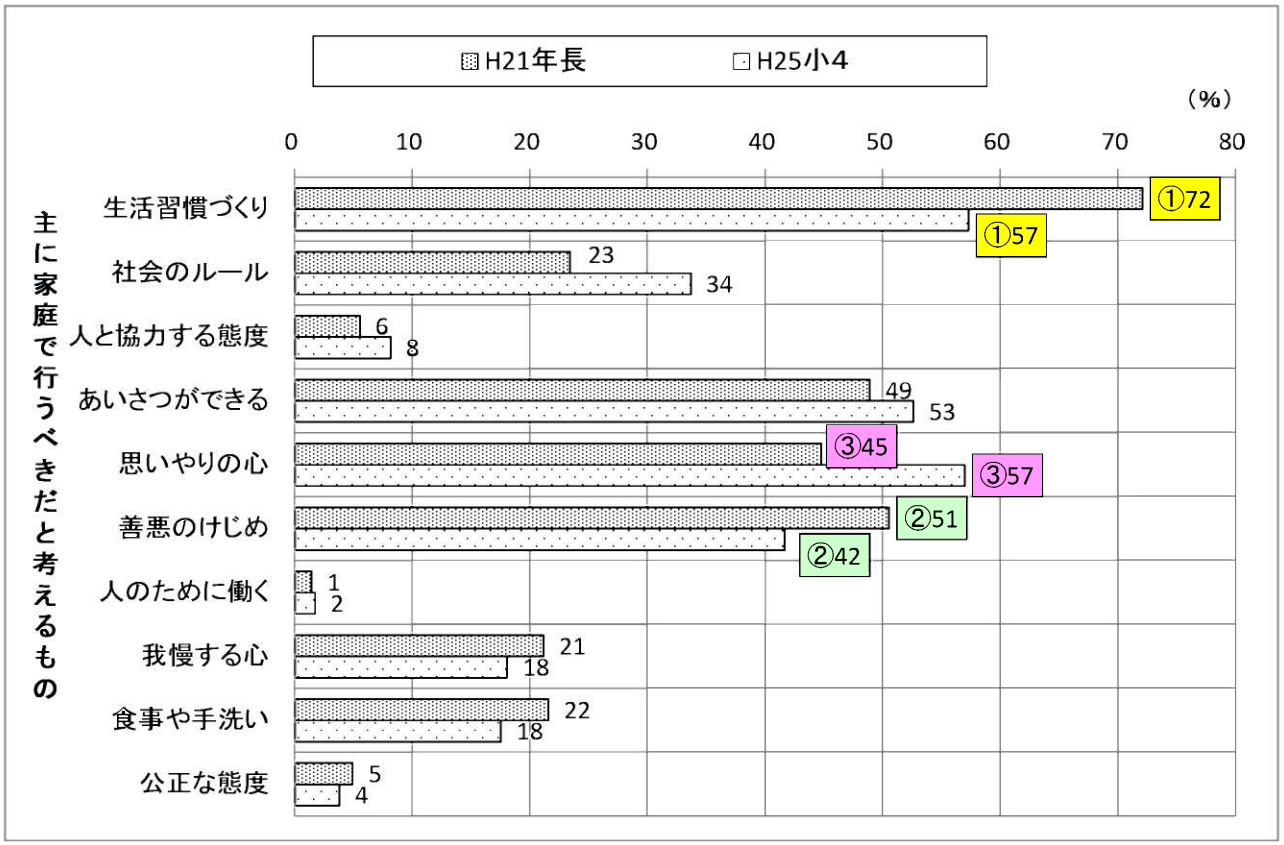
○子どもの年齢が上がっても、保護者が考える「家庭で行うべきもの」は変わっていなかった。

問14～16　主に家庭で行うべきだと考えるものを3つ以内で選んでください。

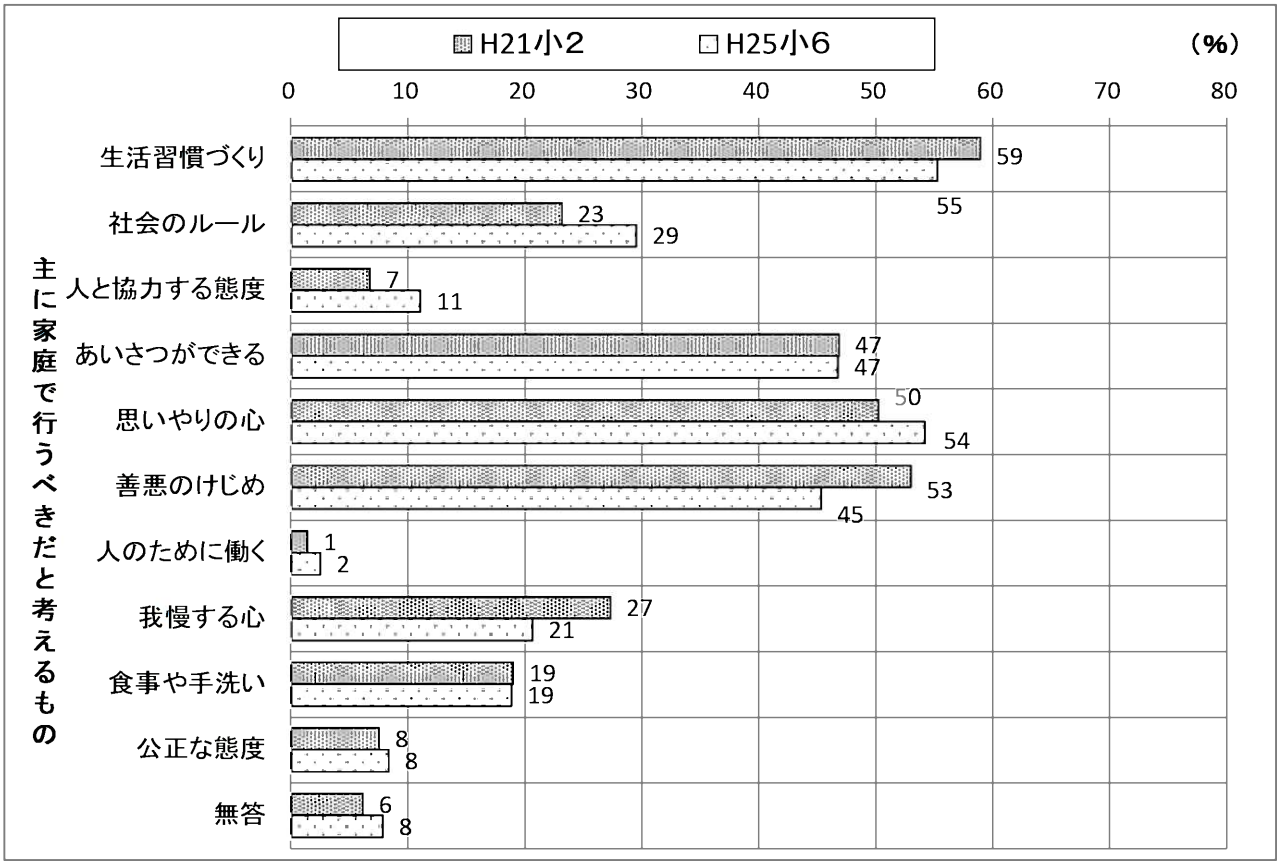
H21【年少】とH25【小2】



H21【年長】とH25【小4】



H21【小2】とH25【小6】



【考　察】

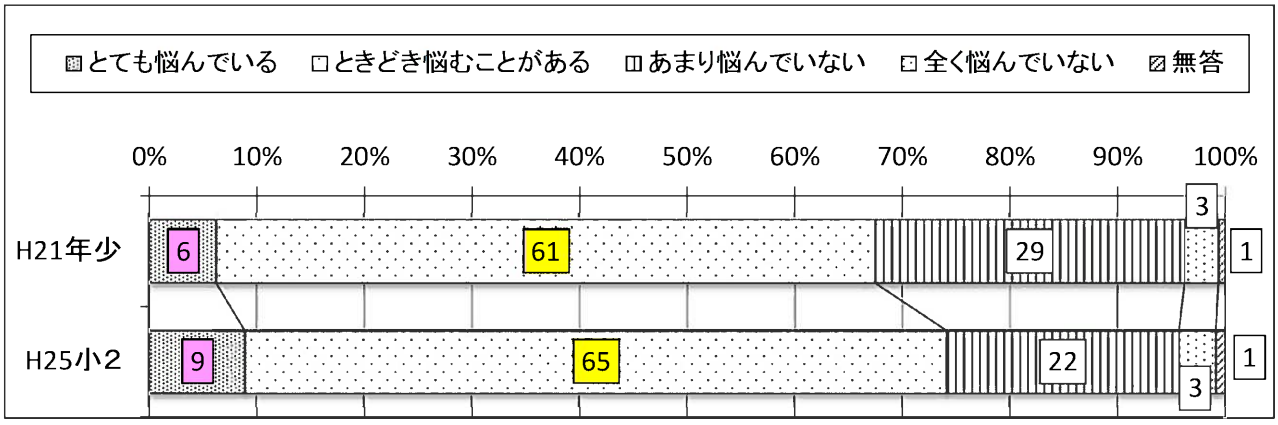
4年前も現在も、3つの学年で「早寝早起きなどの生活習慣づくり」「あいさつができるようにする」「人を思いやる心を育てる」「善悪のけじめがつけられるようにする」を、保護者は家庭で行うべきものとして考えていた。

特徴としては、「早寝早起きなどの生活習慣づくり」(①)、「善悪のけじめがつけられるようにする」(②)の割合が小学校入学後に大きく減っていたこと、「思いやりの心を育てる」(③)の割合が小学校入学後に大きく増えていたことである。年齢とともに、子どもは基本的な生活習慣が身についてくるので、4年後、保護者は心の成長を望むようになるものと思われる。このような保護者のニーズを踏まえて、家庭教育支援・子育て支援を行っていくことが必要である。

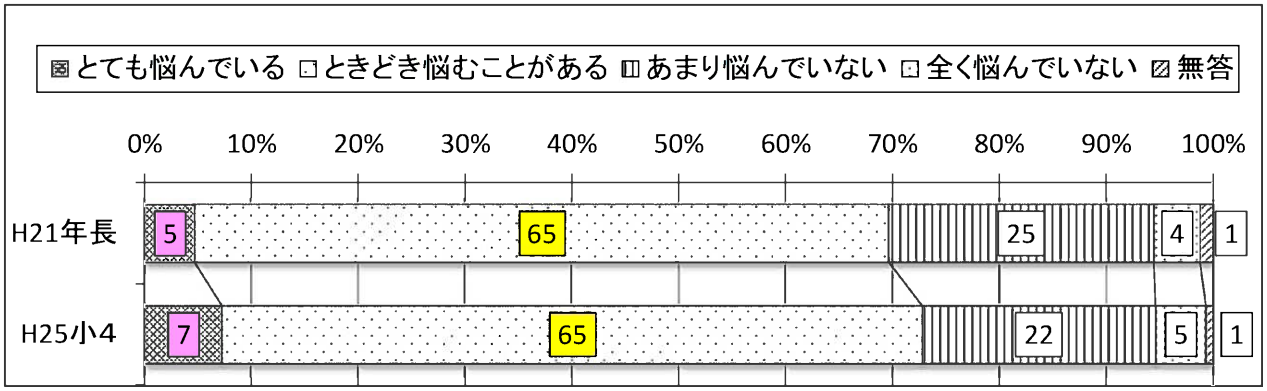
○現在も4年前も、3つの学年で70%前後の保護者が、子どものしつけについて「とても悩んでいる」「ときどき悩むことがある」と答えていた。

問17　あなたは、お子さんのしつけのことで悩んでいますか。

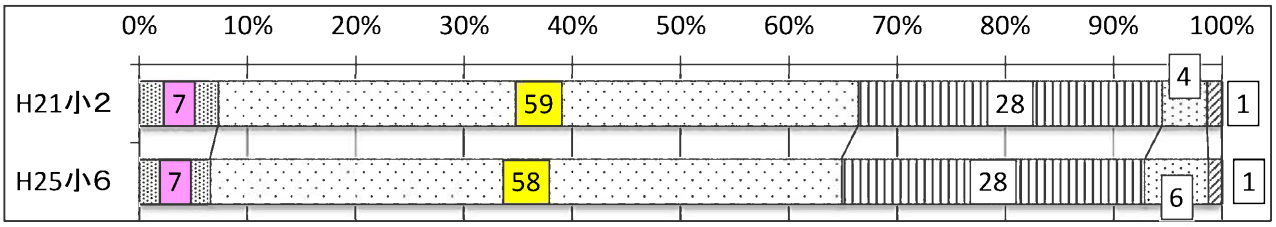
H21【年少】とH25【小2】



H21【年長】とH25【小4】



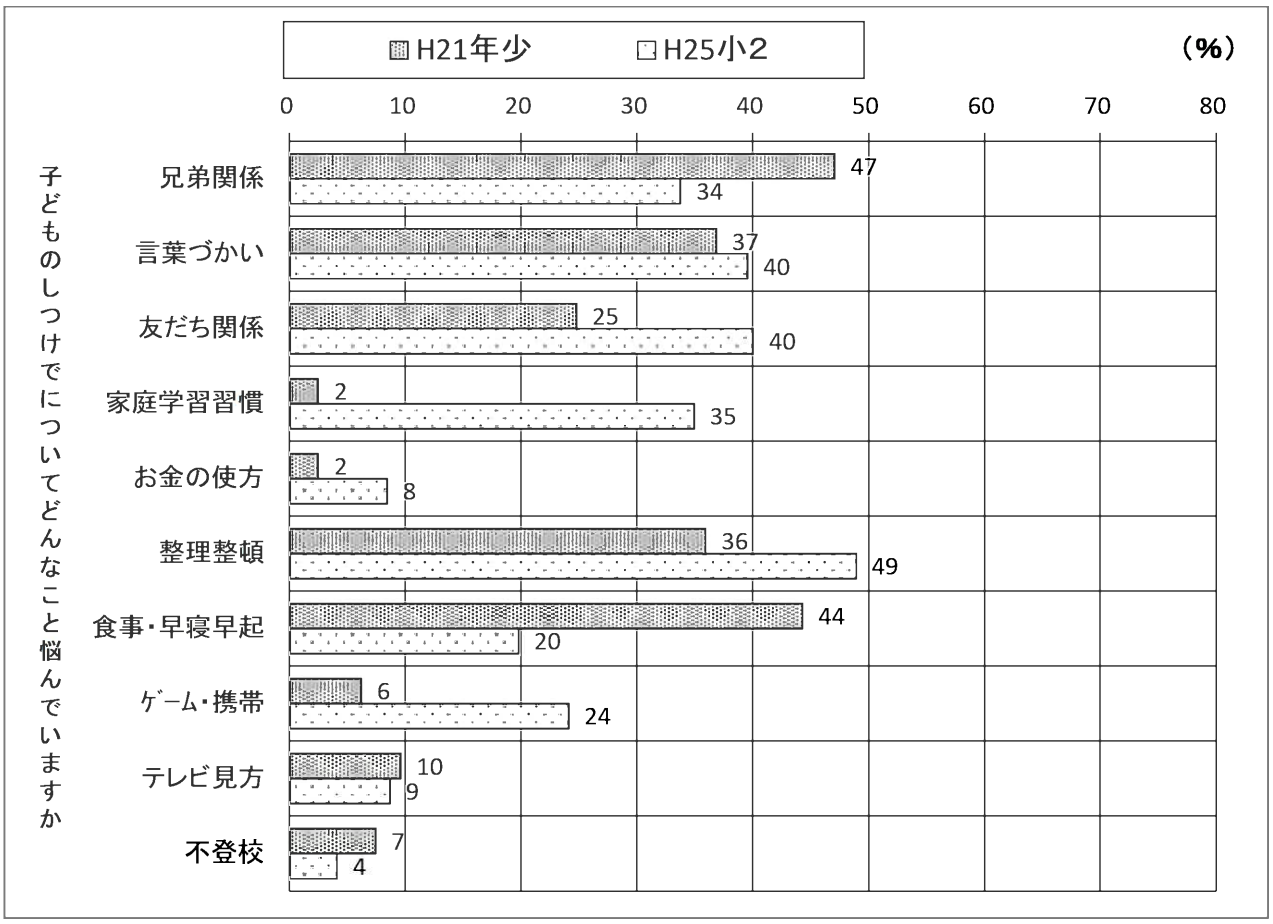
H21【小2】とH25【小6】



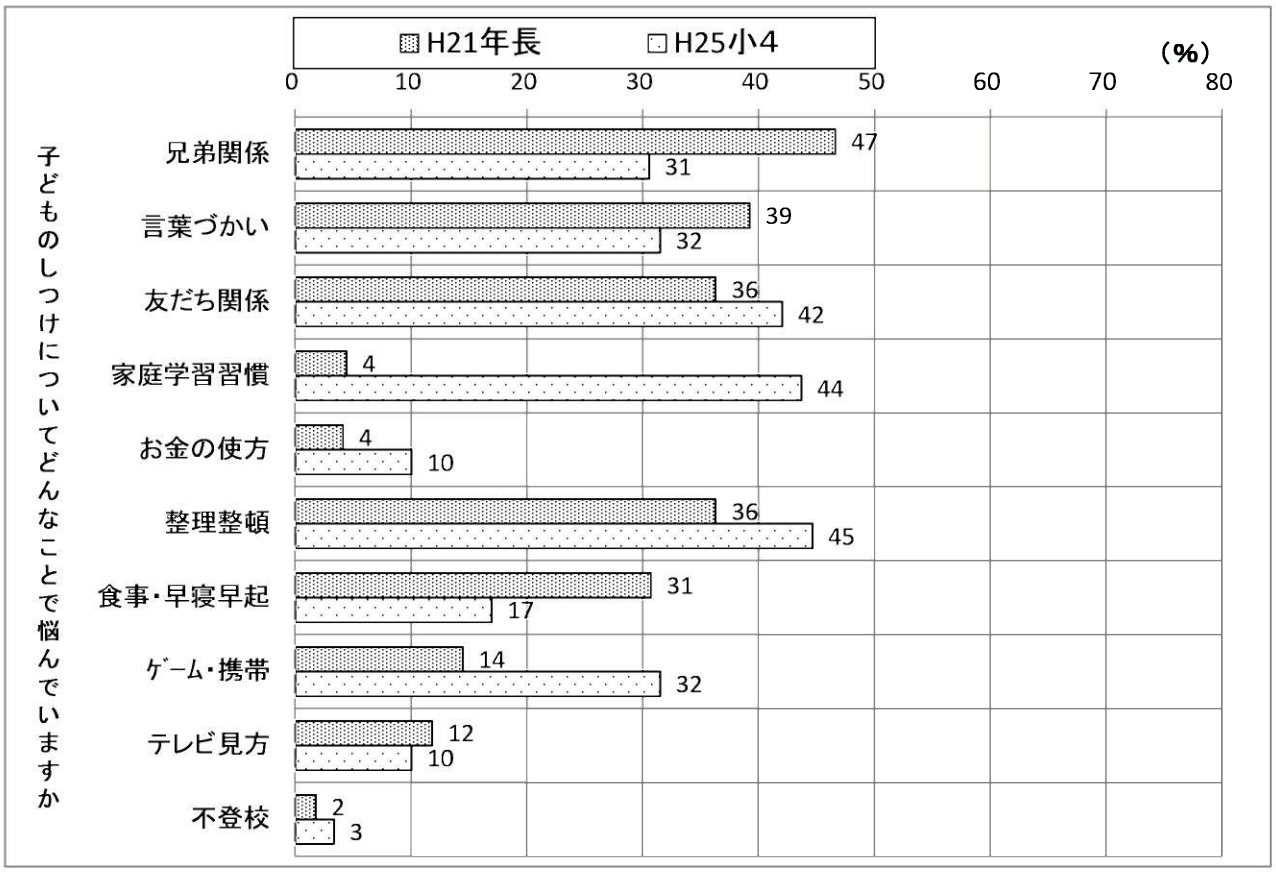
○子どものしつけに関する親の悩みは、学年が上がるとともに変わっていた。

問18～20　「問17」で、「とても悩んでいる」「ときどき悩むことがある」と答えた人にうかがいます。どんなことで悩んでいますか。3つ以内で選んでください。

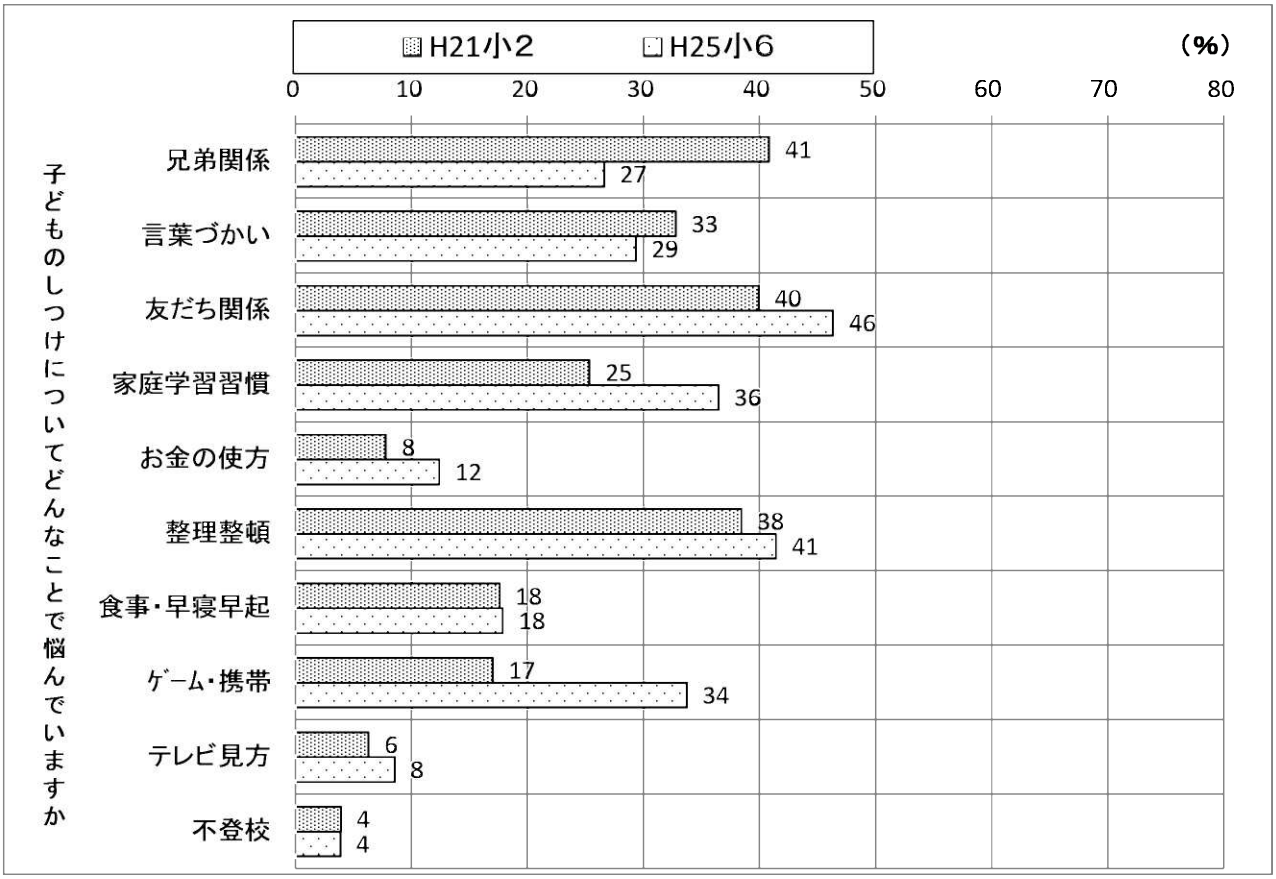
H21【年少】とH25【小2】



H21【年長】とH25【小4】



H21【小2】とH25【小6】

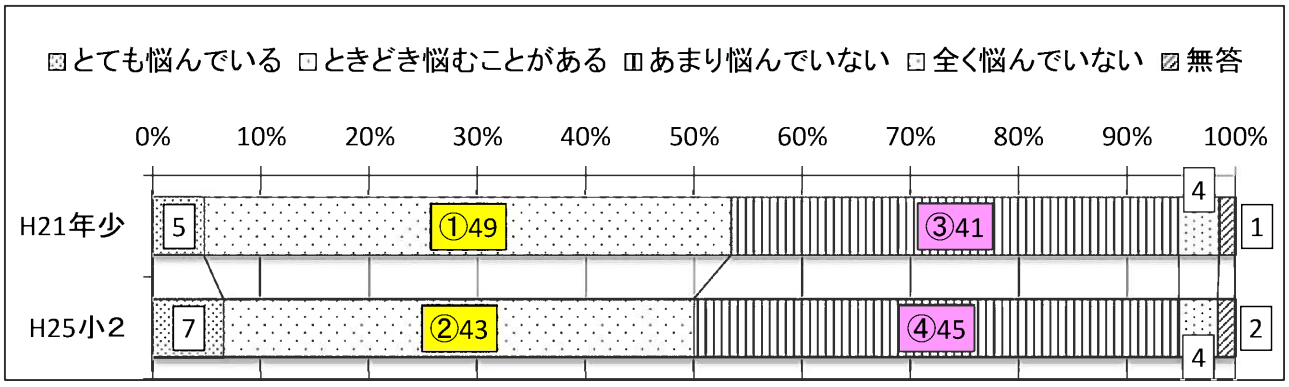


【考　察】
　子どもの年齢とともに、兄弟関係で悩む保護者の割合が減っていた。子どもの成長に伴って兄弟関係が落ち着いてくるものと考えられる。
　小学校に入学すると、高学年だけでなく低・中学年でも「家庭学習の習慣化」で悩む保護者の割合が大きく増えていた。低・中学年のうちから家庭学習の習慣を身につけさせたいと願う親が多いことがうかがえる。
　ゲーム・携帯・インターネットの使い方に悩む保護者の割合も4年前より大きく増えていた。年齢とともに悩む親が増えるということもあるが、近年、スマートフォンや携帯ゲーム機から手軽にインターネットにつながる環境が進み、それに伴って親の悩みも増しているように思われる。

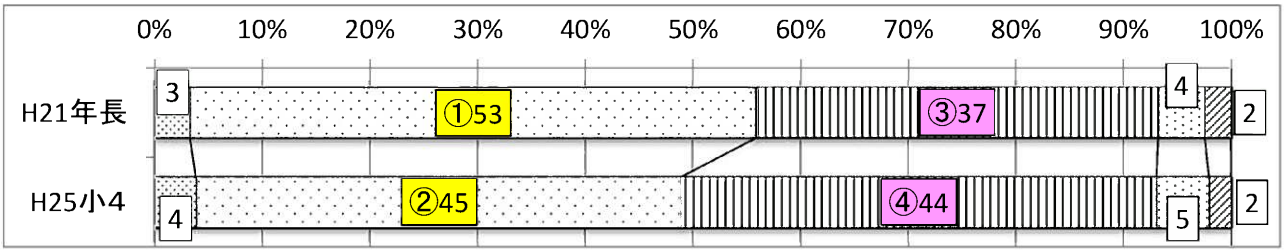
○4年前より現在の方が、子育てについて悩む親の割合は減っていた。

問21　　あなたは、子育てのことで悩んでいますか。

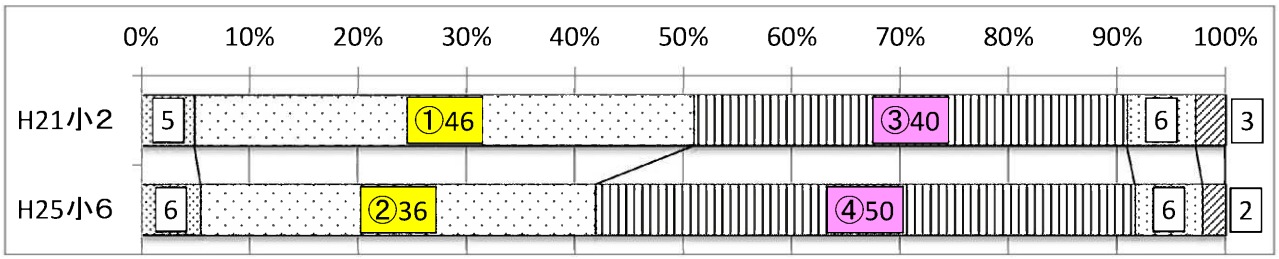
H21【年少】とH25【小2】



H21【年長】とH25【小4】



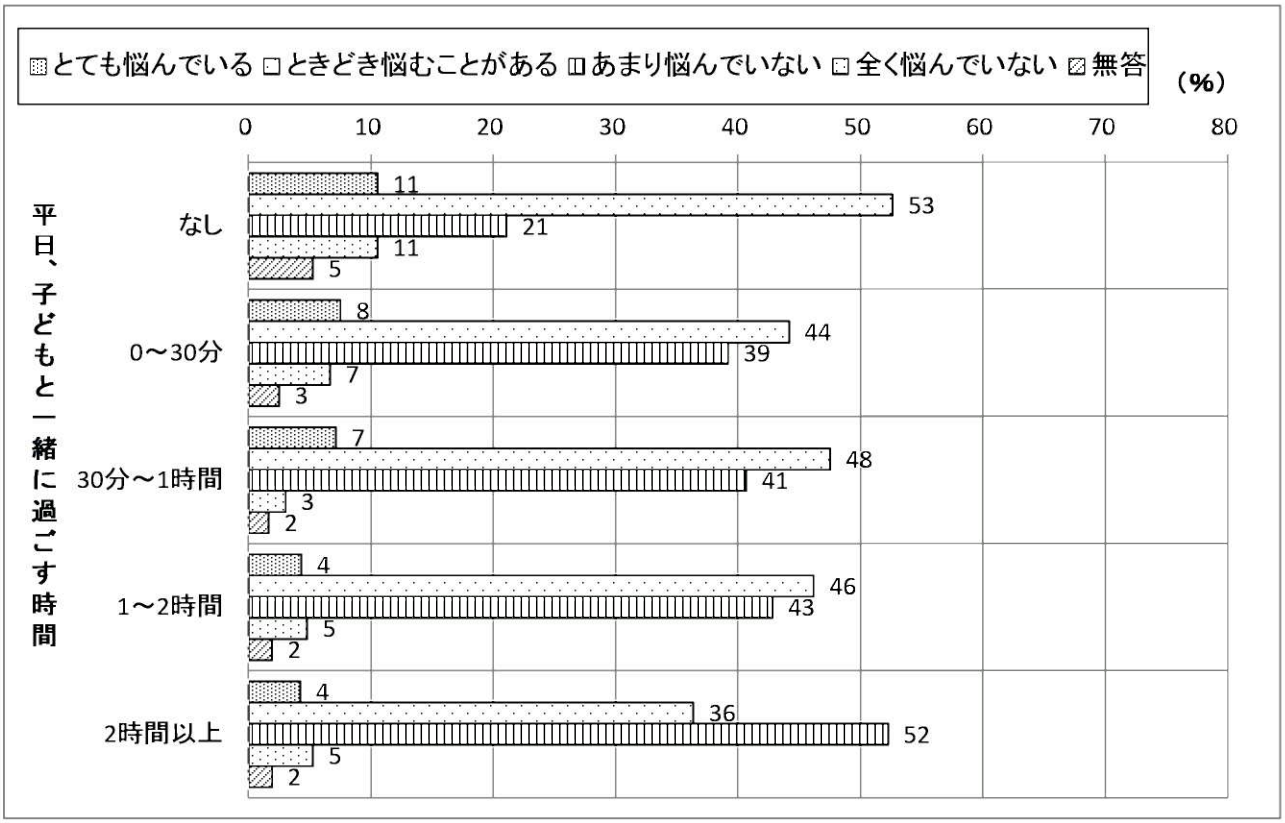
H21【小2】とH25【小6】



【考　察】
　子育てについて「ときどき悩むことがある」と回答した保護者の割合は、4年後、3つの学年で少なくなり(①→②)、「あまり悩んでいない」と回答した保護者の割合が3つの学年で増えていた(③→④)。子どもの成長に伴って、子育てに悩む保護者の割合が全般的に減っている。これは、子どもの成長を考えると自然なことだが、それでも約半数の親が子育てについて悩んでいる。
　子どものしつけでは、7割の保護者が悩んでいたが、子育てでの悩みを持つ保護者は5割程度であった。子育て全般のことより、子どものしつけ方を学びたいと考えている保護者の方が多いようである。

○平日、子どもと一緒に過ごす時間が増えるにしたがって、子育てに悩む保護者の割合は減る傾向にあった。

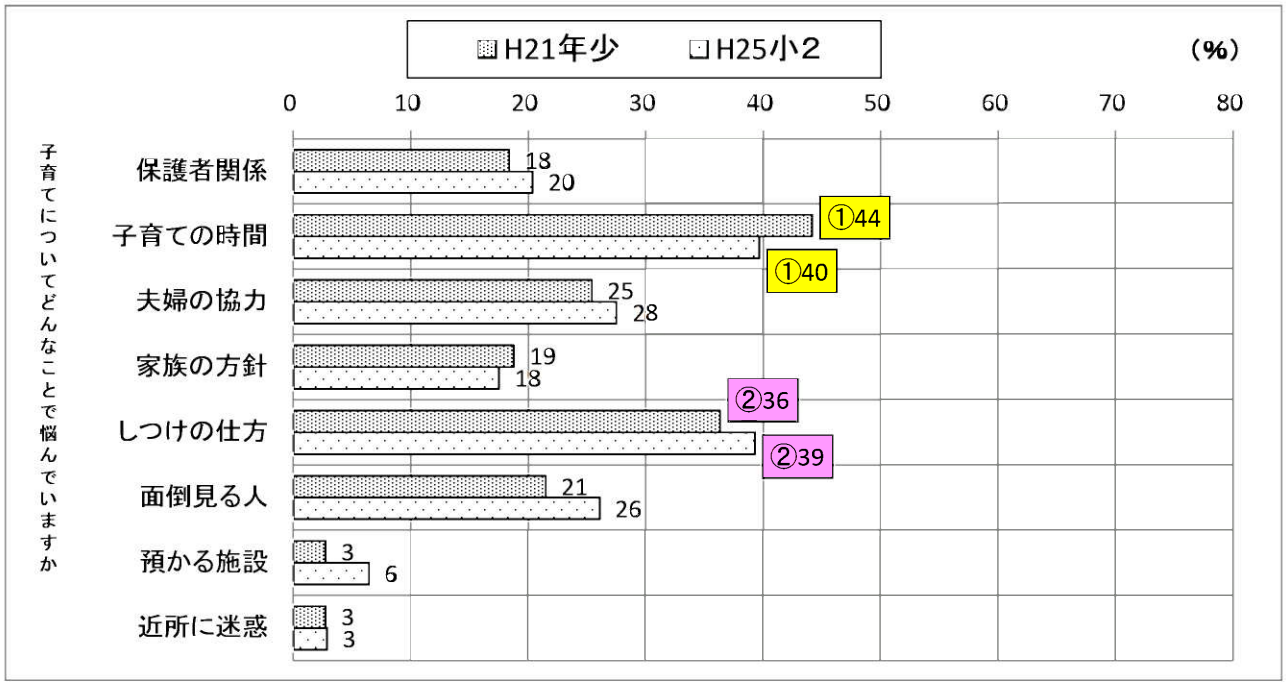
問21　あなたは、子育てのことで悩んでいますか。



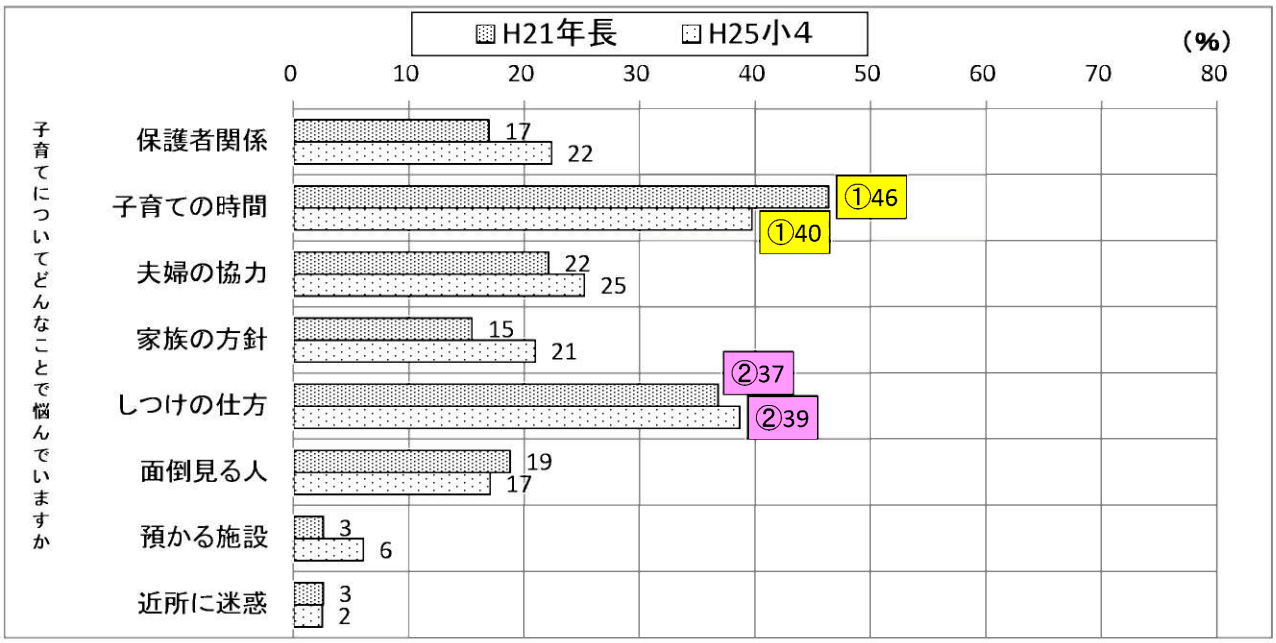
○4年前も現在も、「子育てに十分な時間がとれないこと」で悩む保護者が最も多かった。

問22～24　　「問21」で、「とても悩んでいる」「ときどき悩むことがある」と答えた人にうかがいます。どんなことで悩んでいますか。3つ以内で選んでください。

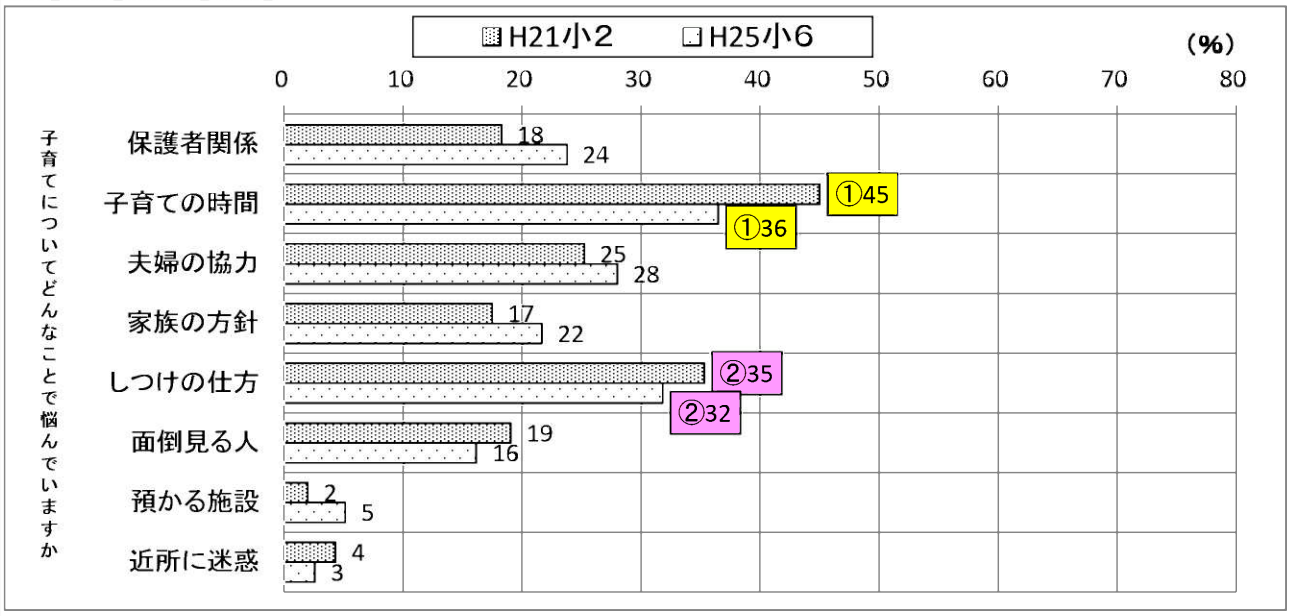
H21【年少】とH25【小2】



H21【年長】とH25【小4】



H21【小2】とH25【小6】



【考　察】

子育ての悩みで一番多いのは、4年前も現在も、3つの学年で「子育てに十分な時間がとれないこと」であった(①)。そして、その割合は3つの学年で平成21年度のほうが多かった。子どもが小さいとき、より子育ての時間が足らないと感じている保護者が多いようである。子どもが小さいときこそ、子育ての時間が確保できるような支援が必要である。また、二番目に多いのは、4年前も現在も、3つの学年で「しつけの仕方がわからない」であった(②)。

○悩みごとがあるとき、夫婦や身内に相談し、解決しようとしている保護者が多かった。

問25～27　あなたは、子育ての悩みを解決するためにどのような方法をとっていますか。あてはまると思うものを3つ以内で選んでください。

(%)

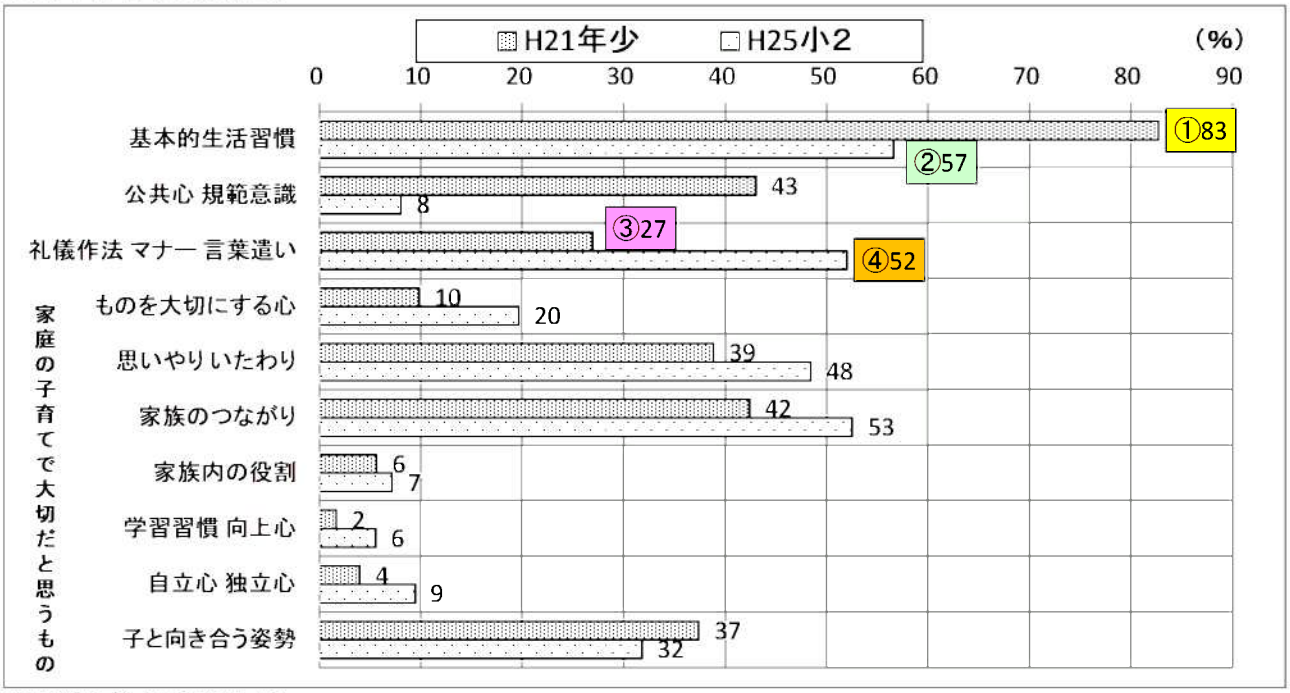
	1.夫婦で相談	2.親や兄弟など身内に相談	3.学校の先生に相談	4.同じ学校の保護者に相談	5.友人や先輩に相談	6.専門書やインターネットで学習	7.電話相談	8.相談したいが何もしてない
H25　小2	25.1	25.3	5.8	11.2	20.6	8.3	0.5	①3.2
H25　小4	30.2	22.6	6.5	12.7	19.5	5.4	0.2	①2.9
H25　小6	28.4	24.4	6.4	10.6	20.0	5.8	0.0	①4.4

【考　察】
悩みを解決する方法は、「夫婦で相談」「親や兄弟などの身内に相談」が3つの学年で多かった。家庭内で悩み事を相談し、解決しようとしている保護者が多いということであろう。子どものしつけを主に母親が行っている家庭が6割あるものの、何かあれば夫婦で力を合わせて解決しているものと思われる。
「相談したいが何もしていない」という家庭は、3つの学年とも6～8%であった(①)。支援する必要のある家庭だと思われる。

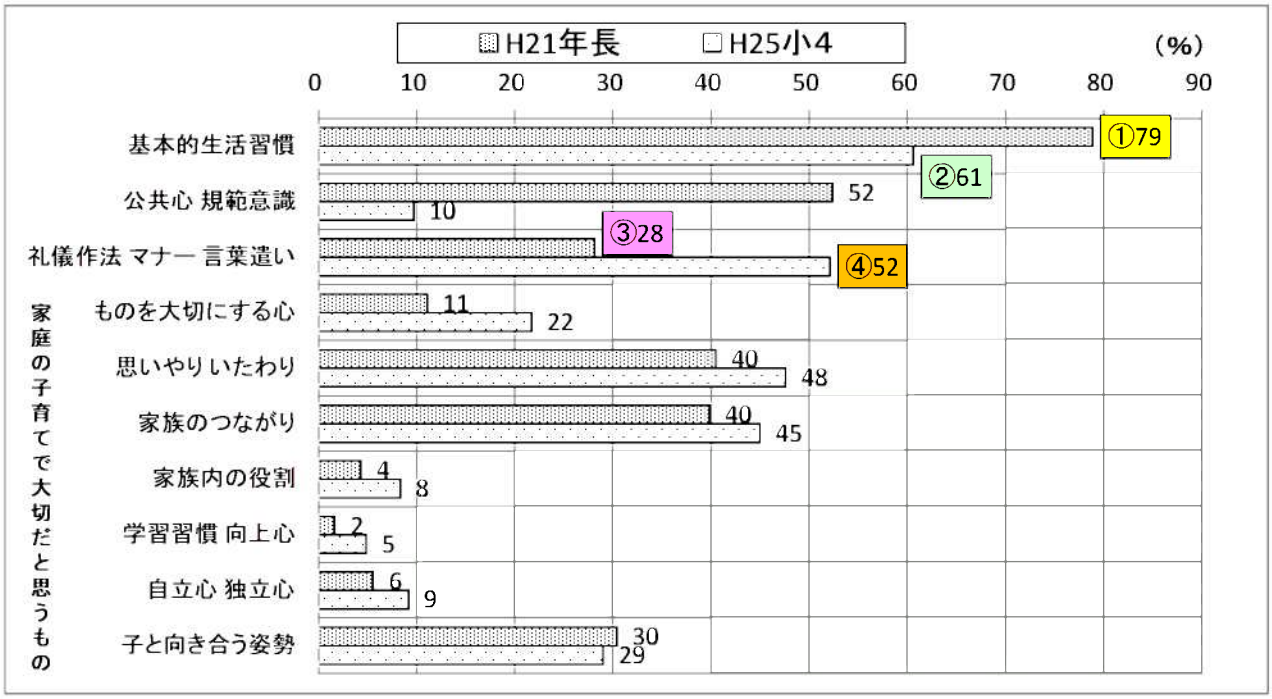
○家庭の子育てとして最も大切だと思うものは、子どもの年齢が上がっても「基本的生活習慣」であったが、その割合はかなり減っていた。

問28～30　　あなたは、家庭の子育てとして何が大切だと思いますか。あてはまると思うものを3つ以内で選んでください。

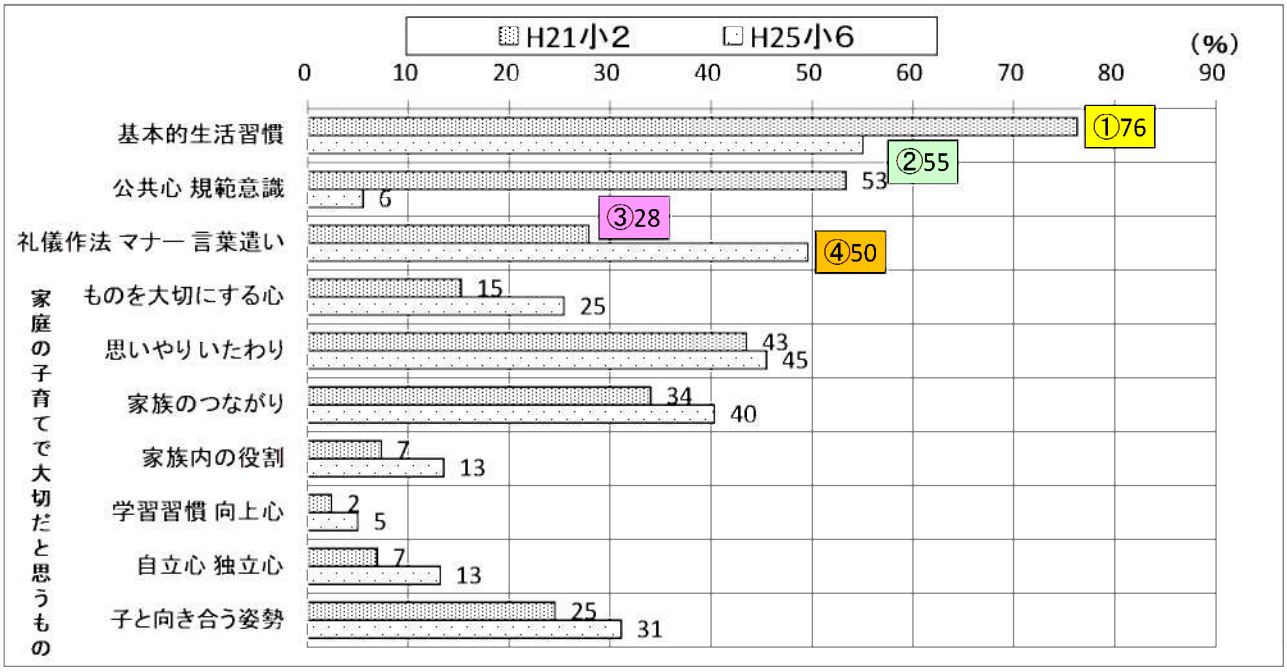
H21【年少】とH25【小2】



H21【年長】とH25【小4】



H21【小2】とH25【小6】



【考　察】

家庭の子育てとしてもっとも大切だと思うものは、4年前も現在も、3つの学年で「基本的生活習慣」であったが、4年前と現在を比べると、その割合は大きく減っていた(①→②)。「礼儀作法、マナー、言葉遣い」は、平成21年度、3つの学年で28%程度(③)であったが、平成25年度は50%(④)ほどになっていた。子どもの発達段階に応じた接し方を、保護者は心がけているように思う。

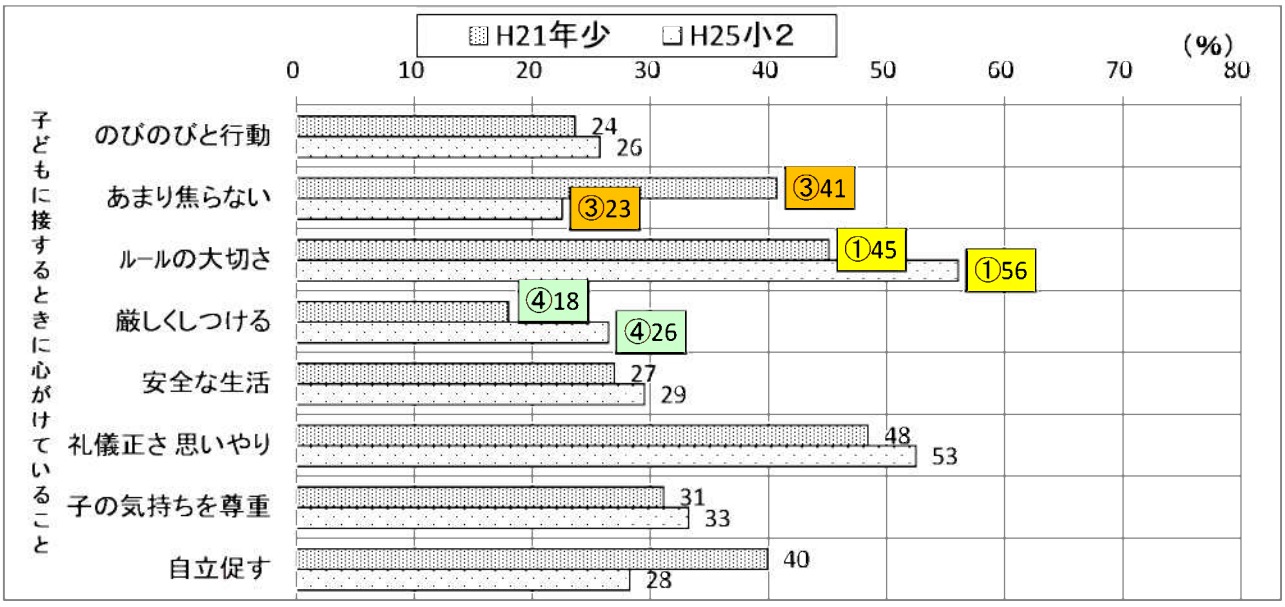
「公共心や社会的な規範意識」を大切に思っている保護者の割合は、平成21年度、3つの学年で50%程度であったが、平成25年は10%以下と大幅に下がっていた。

小学校に入学して「家庭学習の習慣化」で悩んでいる保護者が多かったものの、家庭の子育てとして「学習習慣と向上心」を大切だと回答した保護者は10%に満たなかった。

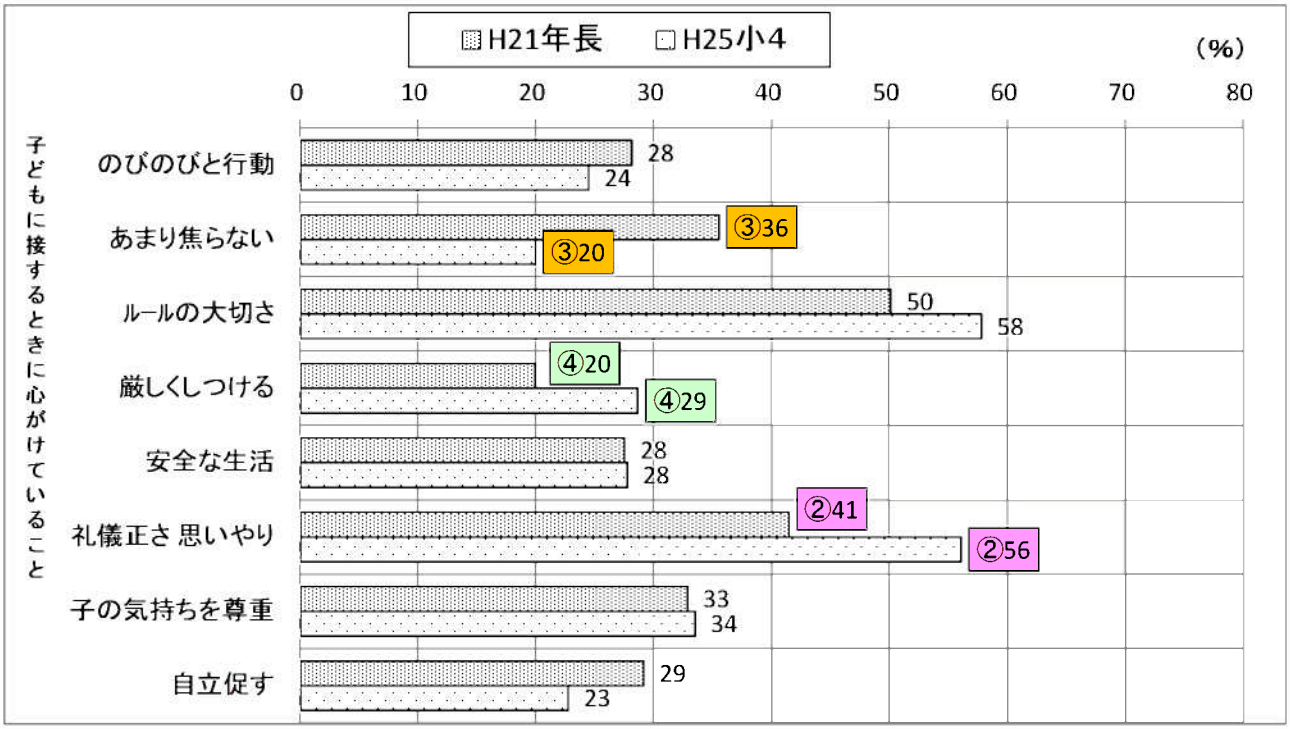
○「ルールや決まりの大切さを教えること」「礼儀正しさや思いやりの心をはぐくむこと」を心がけて子どもに接する親が、子どもの年齢とともに増えていた。

問31～33　あなたがお子さんに接するとき、心がけていることは何ですか。あてはまると思うものを3つ以内で選んでください。

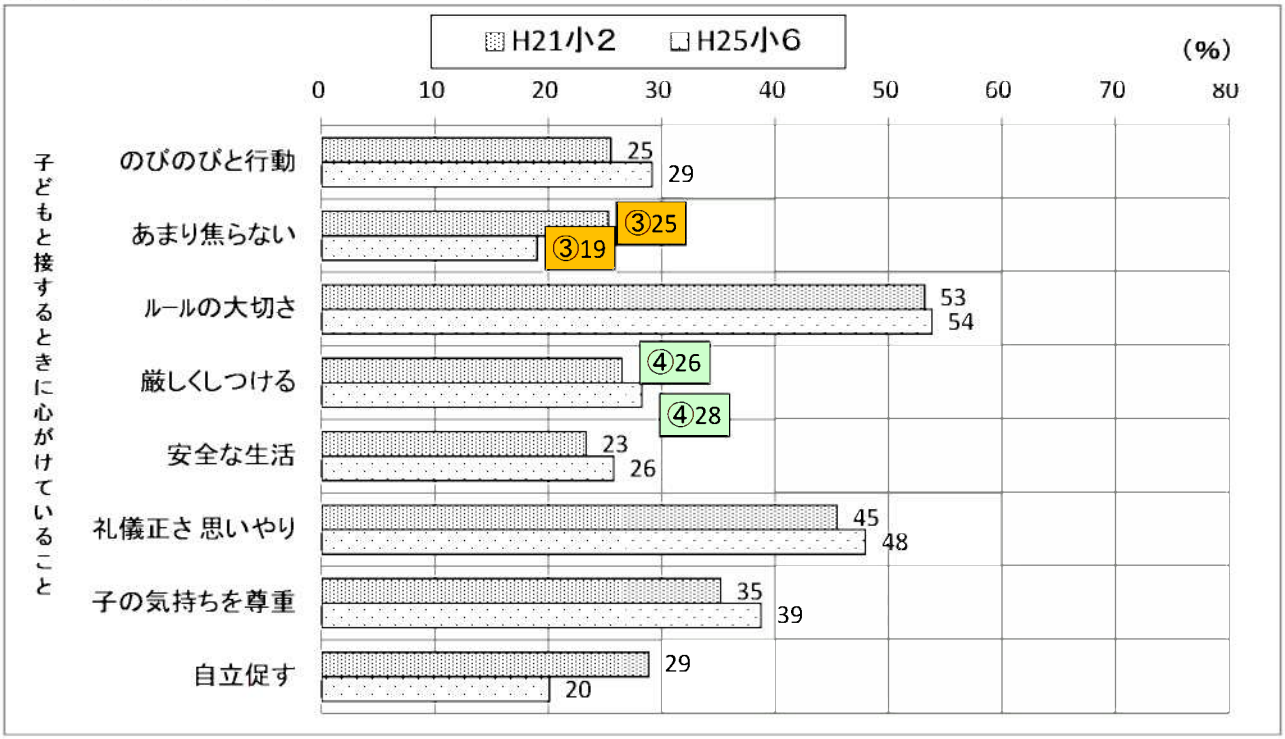
H21【年少】とH25【小2】



H21【年長】とH25【小4】



H21【小2】とH25【小6】



【考　察】

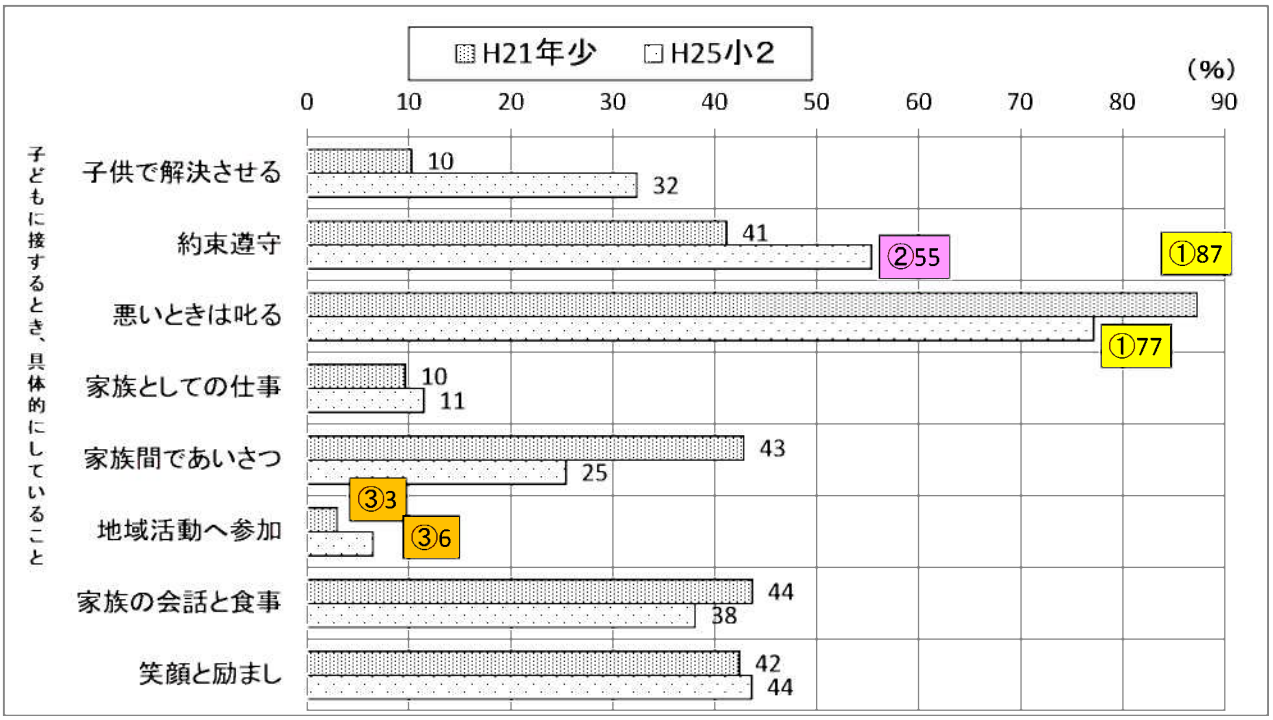
年少から小2に年齢が上がると「ルールや決まりの大切さをきちんと教える」ことを心がけている保護者の割合が増え(①)、年長から小4に年齢が上がると「礼儀正しさや人を思いやる心が身につくように親からあいさつしたりことばがけしたりしている」の割合が増えていた(②)。年齢が上がるにつれて子どもが集団の中での生活に慣れ、保護者は心の成長や人との関わり・社会性の伸長を意識した接し方を心がけるようになるものと思われる。

「時期が来ればできるようになることが多いので、あまりあせらないようにしている」ことを心がけている保護者の割合は子どもの年齢とともに減り(③)、「むやみに甘やかさず、人に迷惑をかけないように厳しくしつけている」の割合は年齢とともに増えていた(④)。

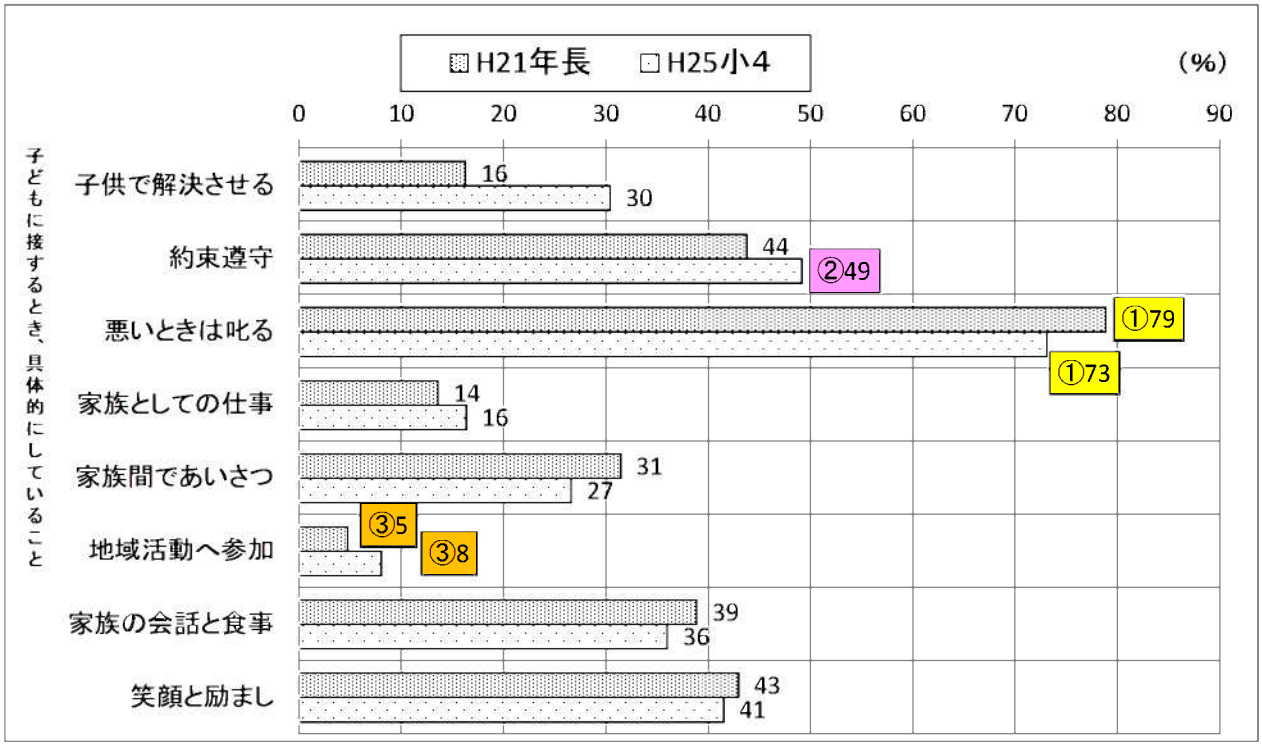
○子どもの年齢が上がっても、「間違ったことをしたときにはしかり、良いことをしたときにはほめる」ことを心がけて子どもに接している保護者が最も多かった。

問34～36　あなたがお子さんに接する時、具体的にしていることはどのようなことですか。あてはまるものを3つ以内で選んでください。

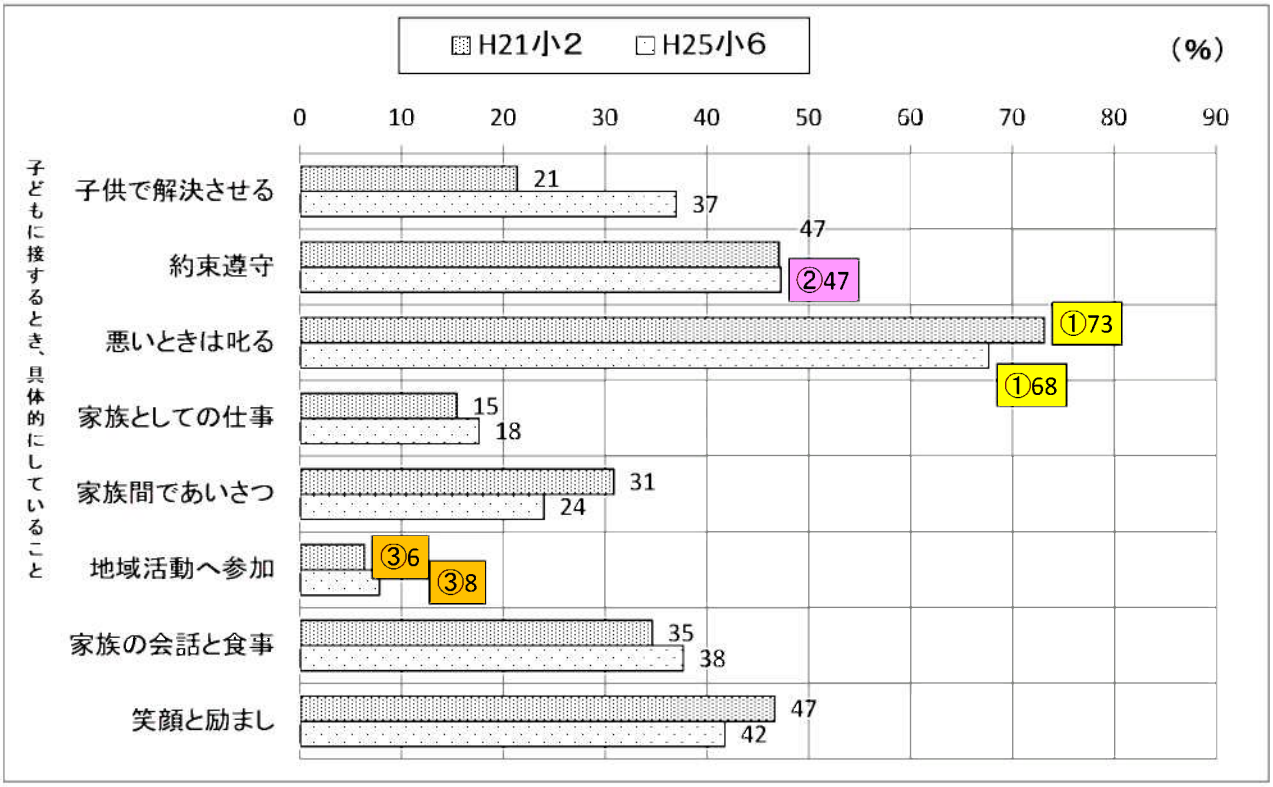
H21【年少】とH25【小2】



H21【年長】とH25【小4】



H21【小2】とH25【小6】



【考　察】

子どもに接するとき具体的にしていることは、「間違ったことをしたときにはしかり、良いことをしたときにはほめる」が、4年前も現在も、3つの学年で一番多く(①)、「決めた約束は守らせるようにし、守らないときにはきちんと叱る」が平成25年度は2番目に多かった(②)。良いことと悪いことが子どもにわかりやすい保護者の接し方は、子どもの価値観を育てていくうえで重要である。

「子どもとの会話や食事」「子どもとの話に耳を傾け、笑顔で応じたり励ましたりする」の割合が、4年前も現在も4割前後であった。思春期にさしかかる子どもたちにとっても、保護者との会話や親の笑顔や励ましはとても大切である。

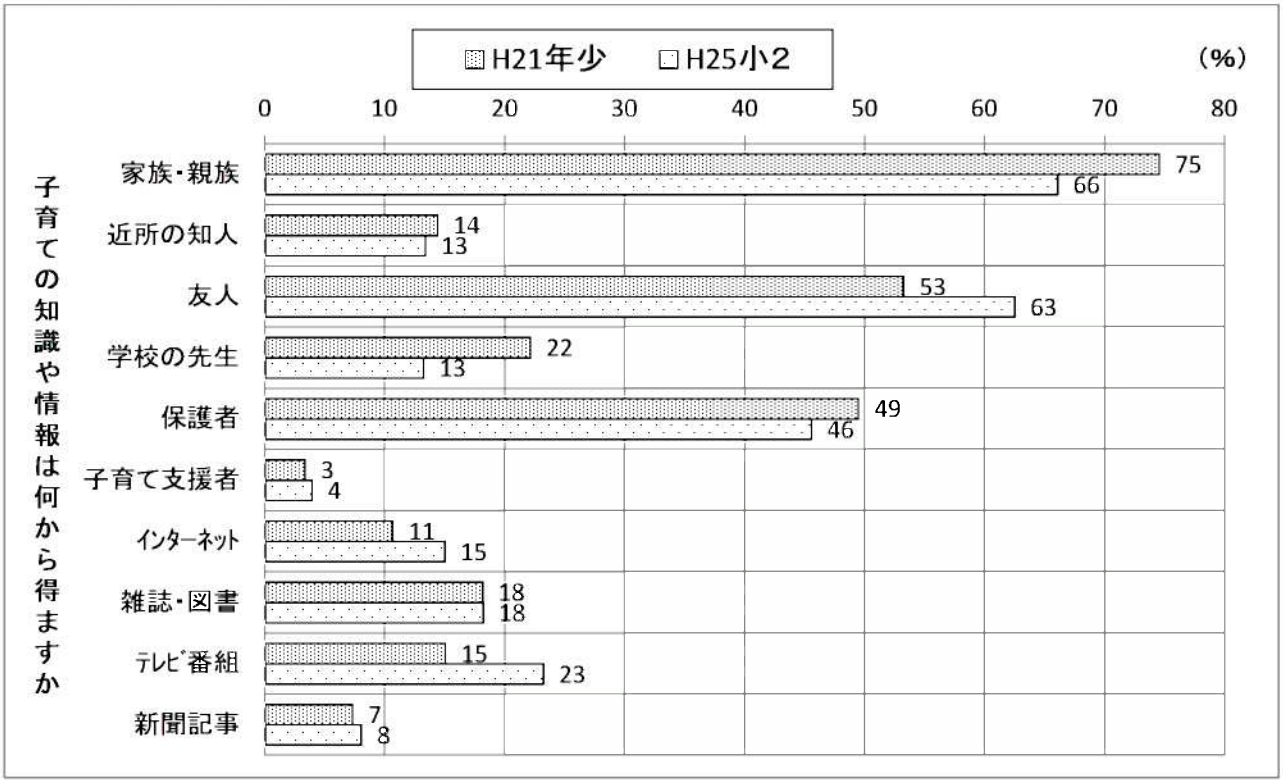
「子ども同士のことは子ども同士で解決させるようにしている」の割合は、小学校入学前より入学後のほうが大きく増えていた。子どもの成長に伴って子ども同士の問題の解決を子どもに任せる機会を増やすことは、子どもの自立を促すうえで大切なことである。

「地域活動や地域行事に参加するように促す」が、4年前も現在も、3つの学年で10%以下であった(③)。

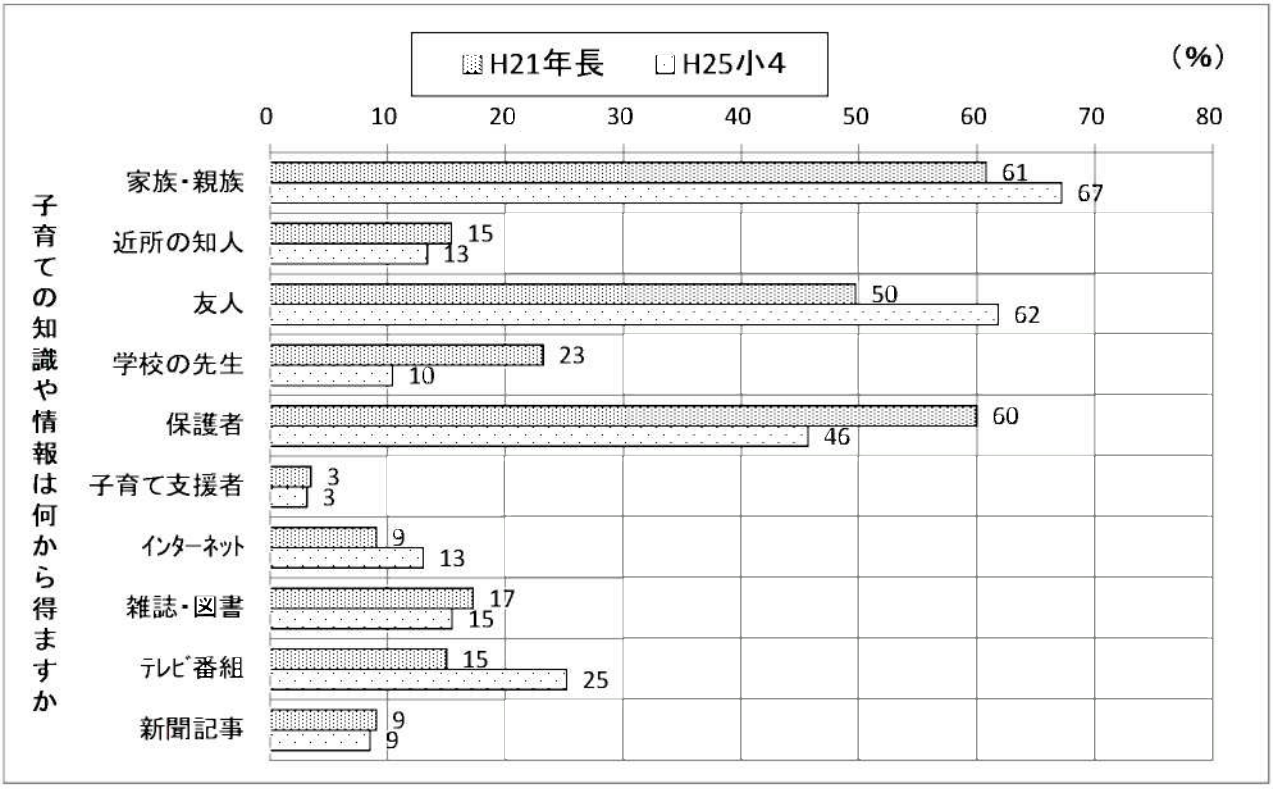
○教育や子育てに関する知識を「家族・親族」から得ている保護者の割合が最も多かった。

問37～39　お子さんの教育・子育てに関しての知識や情報は何から(誰から)得ることが多いですか。あてはまるものを3つ以内で選んでください。

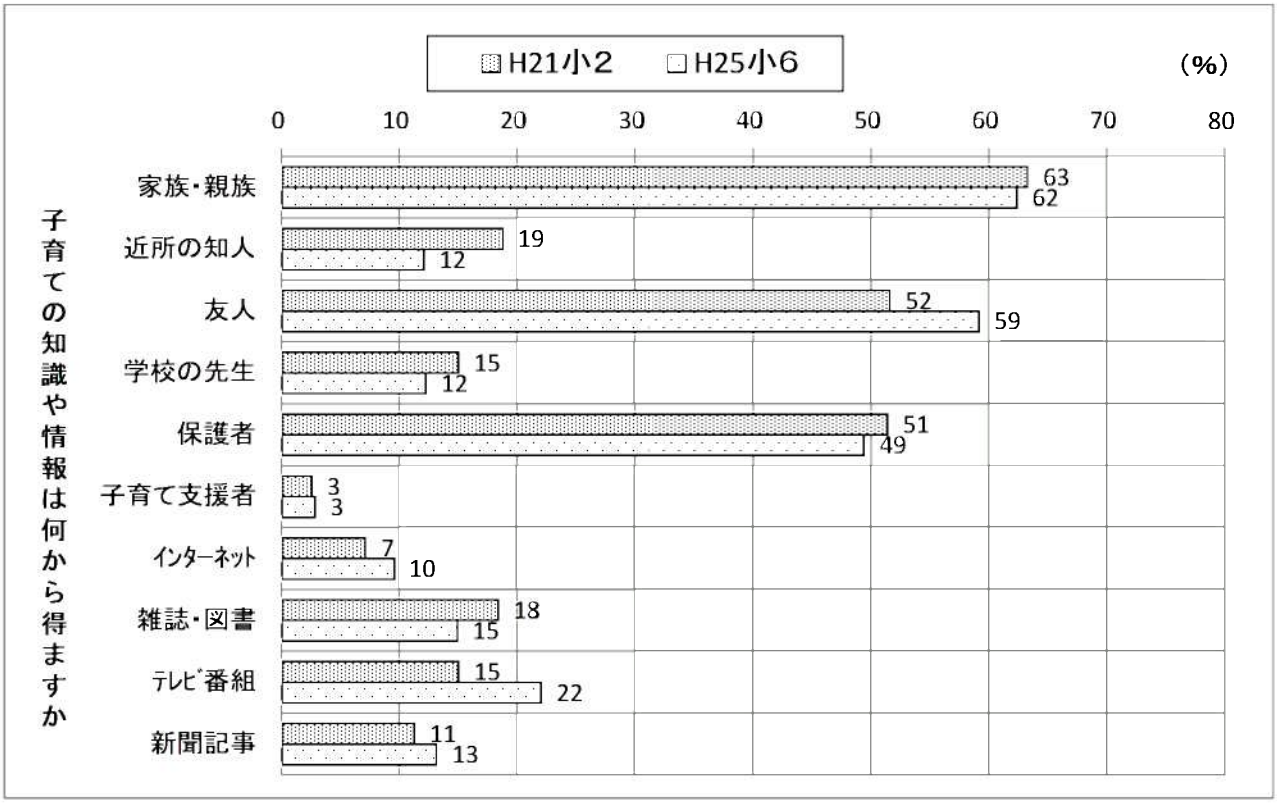
H21【年少】とH25【小2】



H21【年長】とH25【小4】



H21【小2】とH25【小6】



【考　察】

「家族・親族」から子どもの教育や子育てに関する知識や情報を得ている保護者の割合が最も多かった。核家族化による家庭の孤立が危惧されている昨今、家族や親族が子育て家庭を支えていることはとても望ましいことである。また、「友人」「同じ学校の保護者」も多い割合を示す一方、「子育て支援者」から情報を得ている保護者はごくわずかであった。保護者が子育て支援者に気軽に相談したり情報を得たりするためには、身近にいる子育て支援者の存在をもっと知ってもらう必要がある。

小学校に入学すると、先生からの知識や情報を得る保護者は半減する。教師は、家庭外での我が子の様子を一番よく知っている大人のはずである。学校は、保護者にとって敷居の高い場所なのか。

Ⅳ　子育てに対する回りの協力

○家庭の教育力を高めるためには、「夫婦が円満でいる」ことが大切であると考えている保護者が最も多かった。

問40～42　　家庭の教育力を高めるためにはどのようなことを行えばよいと思いますか。3つ以内で選んでください。

	1.学校が教育のあり方を示す	2.学校が家庭教育の学習会を行う	3.地域が家庭教育支援組織を作る	4.地域が挨拶運動・清掃活動を企画する	5.教育委員会・公民館が家庭教育の学習会を行う	6.親同士で子育サークルに参加する	7.親が地域活動に積極的に参加する	8.親が家庭教育の本を読む	9.夫婦が円満でいる
H25 小2	8.3	7.1	6.0	7.1	7.5	6.1	②14.9	7.2	①35.8
H25 小4	8.5	7.7	7.4	6.2	6.3	6.6	②14.2	8.1	①35.1
H25 小6	8.5	9.0	6.5	7.8	6.2	6.5	②13.9	8.0	①33.5

【考　察】

「家庭の教育力を高めるためにどのようなことを行えばよいか」との問いに対して、「夫婦が円満でいる」と答えた保護者の割合が平成25年度、3つの学年で最も多かった(①)。夫婦が円満でいることは、子どもの教育について夫婦が協力したり、子どもに安心感を与えたりすることにつながる。

次に多かったのは、どの学年も「親が地域活動に積極的に参加する」であった。親が地域活動に参加し地域の人とつながることが、家庭の教育力を高めることになるという認識もつ親が14%ほどいるということであろう。家庭が地域とつながり、地域とともに子育てを行おうとする雰囲気を高めていく支援をさらに行っていく必要がある。

○「家庭教育における祖父母の役割」について学習したいと考えている保護者の割合が最も多かった。

問43～45　　あなたは家庭教育について学習する機会があったらどのような内容のものを学習したいと思いますか。あてはまると思うものを3つ以内で選んでください。

H21【年少】とH25【小2】

	1.子供の心理・性格形成	2.子供の躾の仕方	3.親の子供への態度・役割	4.子供の健康・発育・性	5.良好な家族関係のつくり方	6.学校と家庭の連携の仕方	7.差別をしない子育ての仕方	8.児童虐待防止について	9.家庭教育における父親の役割	10.家庭教育での祖父母の役割	合計
H21年少	17.7	18.8	14.9	4.7	2.2	4.3	4.5	1.7	5.8	①25.5	100.0
H25小２	18.9	15.7	14.3	8.2	5.9	5.4	5.5	1.2	4.8	①20.2	100.0

H21【年長】とH25【小4】

	1.子供の心理・性格形成	2.子供の躾の仕方	3.親の子供への態度・役割	4.子供の健康・発育・性	5.良好な家族関係のつくり方	6.学校と家庭の連携の仕方	7.差別をしない子育ての仕方	8.児童虐待防止について	9.家庭教育における父親の役割	10.家庭教育での祖父母の役割	合計
H21年長	18.2	17.4	13.4	5.0	1.8	3.6	4.2	1.5	5.6	①29.3	70.7
H25小４	17.2	14.2	14.4	9.0	6.9	5.1	4.7	0.9	5.3	①22.3	77.7

H21【小2】とH25【小6】

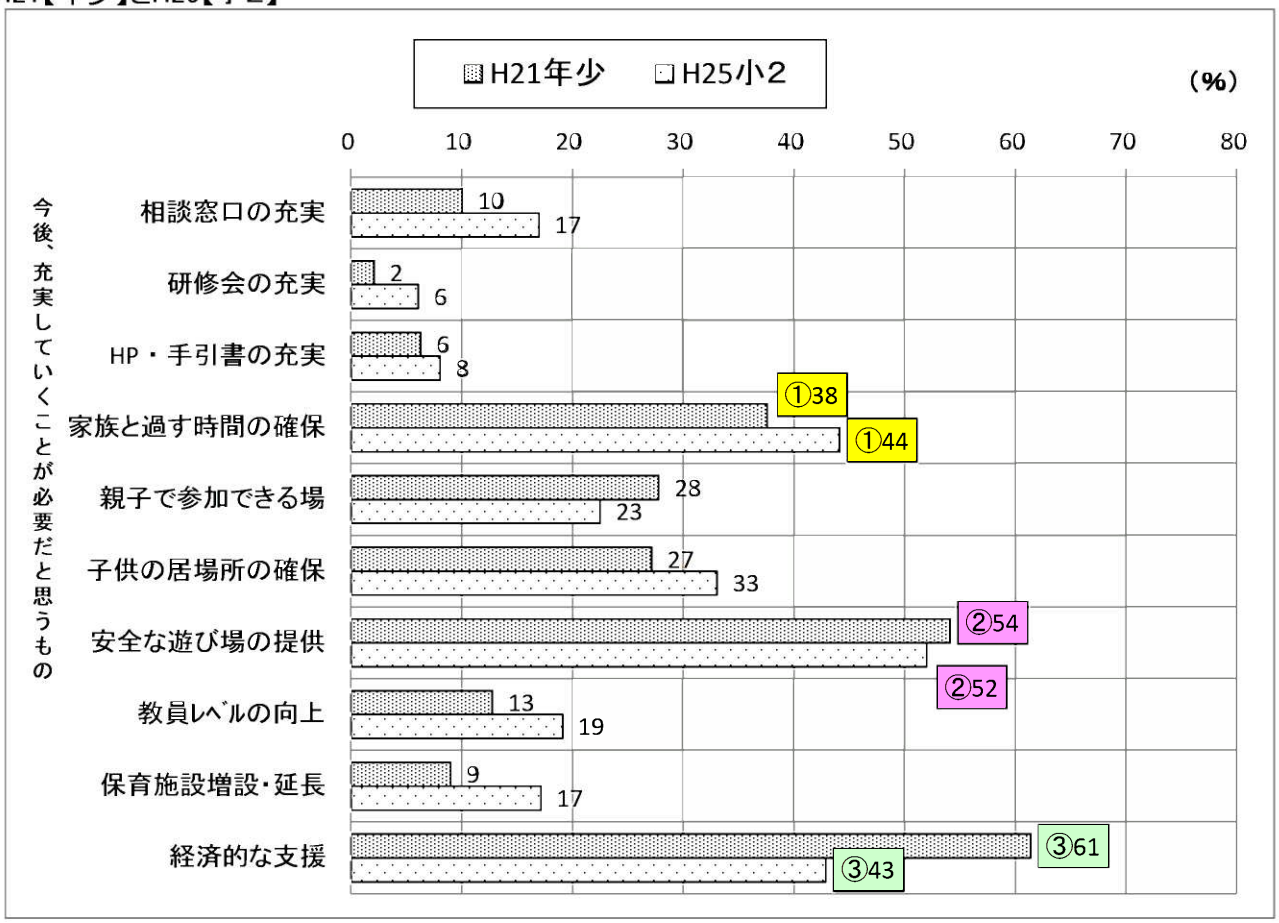
	1.子供の心理・性格形成	2.子供の躾の仕方	3.親の子供への態度・役割	4.子供の健康・発育・性	5.良好な家族関係のつくり方	6.学校と家庭の連携の仕方	7.差別をしない子育ての仕方	8.児童虐待防止について	9.家庭教育における父親の役割	10.家庭教育での祖父母の役割	合計
H21小２	17.3	15.0	13.9	5.3	2.7	3.9	4.0	0.9	5.1	①32.0	68.0
H25小６	17.6	12.5	14.7	8.5	6.9	5.7	4.6	1.2	4.4	①23.9	76.1

【考　察】
「家庭教育についてどのような内容のものを学習したいか」との問いに対して、「家庭教育における祖父母の役割」と回答した保護者が、4年前も現在も、3つの学年で最も多かった(①)。家庭教育を行っていく上で、祖父母の協力を期待し、どのように祖父母に家庭教育に関わってもらったらよいのかを模索している家庭が多いものと思われる。
また、どの学年も次に多かったのは、「子どもの心理、性格形成」「子どものしつけ方」であった。このような親のニーズに寄りそった家庭教育支援を行っていく必要がある。

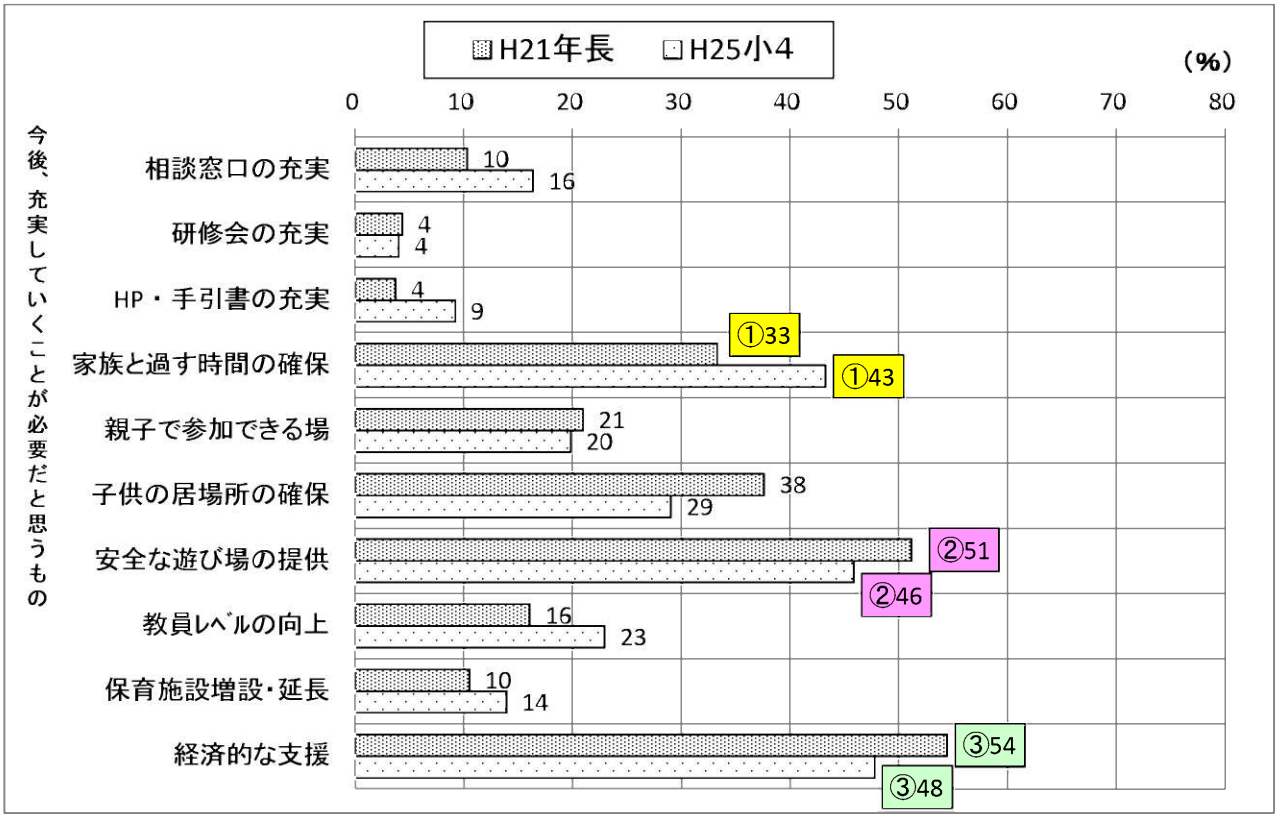
○4年前と変わらず「家族と過ごす時間」「安全な遊び場」「経済的支援」を望む保護者が最も多かった。

問46～48　　子育てのために今後もっと充実していくことが必要だと思うものを3つ以内で選んでください。

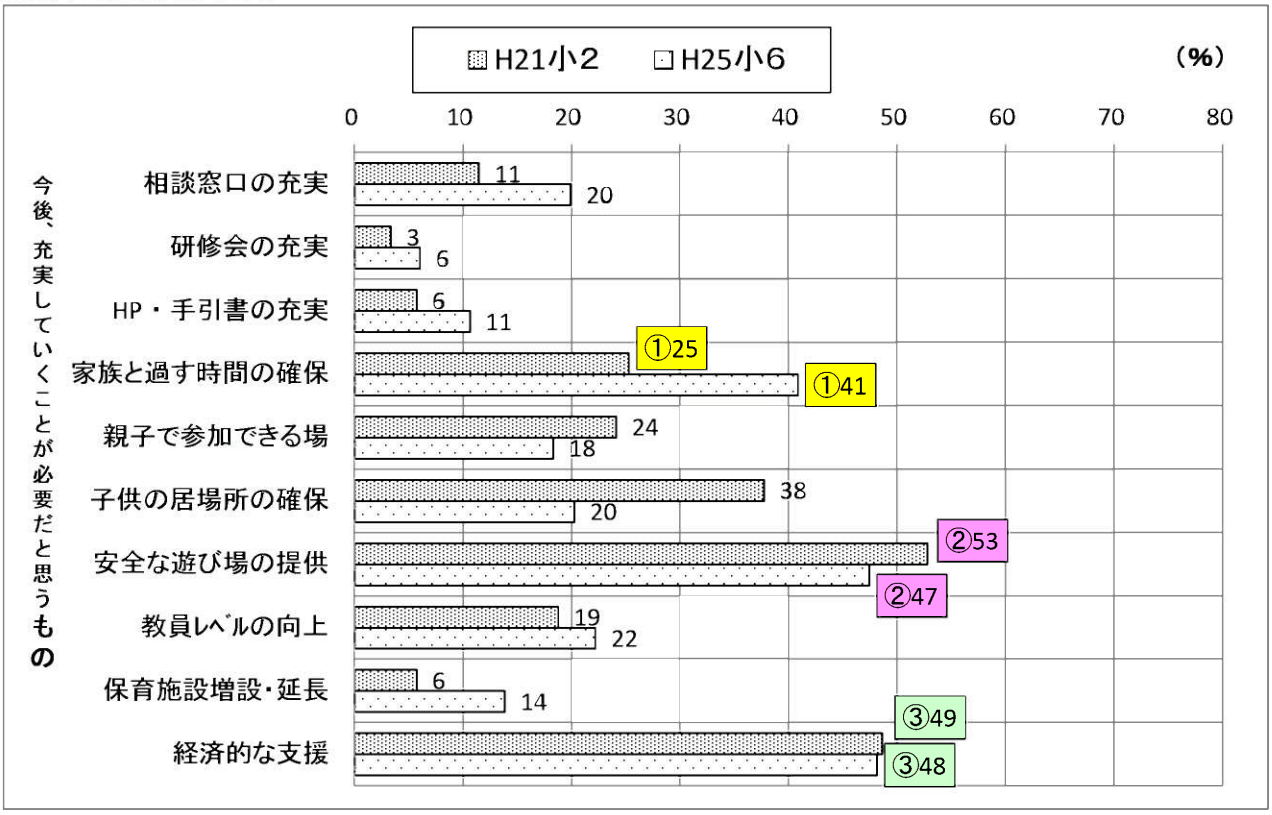
H21【年少】とH25【小2】



H21【年長】とH25【小4】



H21【小2】とH25【小6】



【考　察】

「子育てのために今後もっと充実していくことが必要だと思うことは」との問いに対して、4年前も現在も、3つの学年で「働く父母が家族と過ごす時間を確保する社会的支援の充実」(①)、「安全な遊び場の提供」(②)、「児童手当などの経済的な支援」(③)と回答した保護者の割合が多かった。時間的、経済的に余裕の少ない子育て家庭、子どもたちが安全に遊べる場所を求める保護者が多いことを感じる。